

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	心理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	江崎 浩明	実務経験	産業・学校・医療領域にて相談業務約17年間		
講義目標	一般目標				
	日常生活でのさまざまな心の働きについて、科学的・学問的に理解を深める。				
講義目標	到達目標				
	後に学ぶ臨床心理学や精神医学の内容理解が促進されるよう、基礎心理学の用語や概念を理解する。また、心理学に対する誤解や偏見、擬似科学との違いについて考察する。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション心理学の種類と分類				
2	心理学に関する誤解と偏見				
3	心理学の歴史				
4	人格の形成				
5	人格の変容				
6	知能と適性				
7	創造性と問題解決能力				
8	試験				

**講義方法**

教科書とPowerPointの併用

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

教科書、授業資料を忘れずに準備すること。

**成績評価方法**

小テストと定期試験の総合評価

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー I

**予習復習のアドバイス**

学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	倫理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	徳田 幸雄	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	「人間とは何か?」「生とは?」「死とは?」といった人間観や死生観の根本的な問いを軸に、人間の尊厳性を再考するとともに自身の人生観をも見つめ直す。				
	<b>到達目標</b>				
さまざまな倫理思想に触れることにより、現代に求められる倫理観を養う。自分自身の考えを論理的に表現できるようにする。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	プラトンの「死の道」				
2	キリスト教における人間観と死生観				
3	イスラームにおける人間観と死生観				
4	仏教における人間観と死生観				
5	死の受容過程				
6	優性思想について				
7	人工妊娠中絶問題				
8	テスト				

**講義方法**

マインド・マップを配布資料として利用し、可能な限り視聴覚資料も取り入れつつ講義をすすめる。

**講義で使用する機器・教材**

配布資料（マインド・マップ）

**履修上の注意事項**

私語を慎むことをはじめ、常識的なマナーで受講すること。講義と無関係なサイトや動画を視聴するのは論外。

**成績評価方法**

毎授業で実施するチェックテストと期末テストによって評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

使用しない。

**予習復習のアドバイス**

予習：日頃から、哲学・倫理・宗教に関わるニュースに関心をもって触れること。

復習：チェック・テストを見直すこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	教育学	講義曜日	木	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	牛渡 淳	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	本授業では、「教育」という営みの本質を考えることを通して、人間とは何か、人間を育てる意味、人間の成長発達の仕事と環境、及び教育者の役割について理解することを目標とします。				
	<b>到達目標</b>				
		①教育の意味と本質、及び、教育者の役割について理解すること、②人間の成長発達における素質と環境の役割について理解すること、③子供の成長を支える教育の場とその役割について理解すること。			
回数	<b>講義内容</b>				
1	教育とは何か、教育の意味・必要性・本質・ルソーの教育論				
2	教育の本質と教育者の在り方(1)、「個性」に即して				
3	教育の本質と教育者の在り方(2)、「自主性」に即して				
4	素質と環境と教育(1)、素質と環境の関連性に関する研究				
5	素質と環境と教育(2)、素質と環境の関連性に関する研究(続き)				
6	素質と環境と教育(3)、素質と環境と教育政策・教育者の関連性				
7	教育の場としての家庭・学校・社会の役割				
8	定期試験				

**講義方法**

毎回、配布する資料に基づいて、詳細な解説を行います。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード

**履修上の注意事項**

私語を慎むことをはじめ、常識的なマナーで受講すること。講義と無関係なサイトや動画を視聴するのは論外。

**成績評価方法**

定期試験とコメントペーパーで評価します。定期試験は、第8回目に行います。60分です。

コメントペーパーは、授業内容についての意見、感想、質問等を書いてもらいます。コメントは平常点として最終評価の一部になります。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

教科書は使用しません。

**予習復習のアドバイス**

授業の終わりに毎回コメントペーパーを作成してもらいます。頂いた質問や意見のいくつかについて、次の授業の冒頭で解説や補足を行います。あらかじめ前回の資料を読んでおくことで、より一層授業の理解が深まります。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1学年
学科	理学療法科	講義時間	(1限～2限 3限～4限)		
科目名	社会福祉学	講義曜日	火・水・金	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	千脇 隆志、高梨 友也	実務経験	高齢者施設等に10年以上勤務 管理職、相談職等 社会福祉士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法士として、主体的な判断と行動を培うことを目指し、そのために生命倫理、人の尊厳を幅広く理解することができる。				
	<b>到達目標</b>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たす役割を説明できる。</li> <li>・社会保障全般と社会福祉関連法規について説明できる。</li> </ul>			
回数	<b>講義内容</b>				
1	講義オリエンテーション（千脇） A（5月19日1限） B（6月2日1限）				
2	現代における社会問題と社会構造（千脇） A（5月19日2限） B（6月2日2限）				
3	社会福祉の全体像（千脇） A（6月9日1限） B（6月16日1限）				
4	社会福祉を担う専門職（千脇） A（6月9日2限） B（6月16日2限）				
5	社会福祉の根源（千脇） A（6月23日1限） B（6月30日1限）				
6	福祉政策の基本的な視点（千脇） A（6月23日2限） B（6月30日2限）				
7	福祉政策の構成要素と過程（千脇） A（7月7日1限） B（7月7日2限）				
8	福祉政策のニーズと資源（高梨） A（9月4日1限） B（9月4日3限）				
9	福祉サービスの供給と利用の過程（高梨） A（9月4日2限） B（9月4日4限）				
10	福祉政策と関連施策（高梨） A（9月8日1限） B（9月8日3限）				
11	福祉政策の国際比較（高梨） A（9月8日2限） B（9月8日4限）				
12	日本の社会福祉の歴史的展開（1）（高梨） A（9月15日1限） B（9月15日3限）				
13	日本の社会福祉の歴史的展開（2）（高梨） A（9月15日2限） B（9月15日4限）				
14	欧米の社会福祉の歴史的展開（1）（高梨） A（9月18日1限） B（9月18日3限）				
15	欧米の社会福祉の歴史的展開（2）（高梨） A（9月18日2限） B（9月18日4限）				

**講義方法**

基本方法として、講義、演習。 必要時ディスカッション、小レポート iPad持参

**講義で使用する機器・教材**

パソコン、プロジェクター

**履修上の注意事項**

教科書、資料を準備して授業参加すること。

**成績評価方法**

期末試験70%、小レポート20%。参加態度10%

S:90~100点、A:80~89点、B:70~79点、C:60~69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

社会福祉学習双書 社会福祉の原理と政策

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書の行う単元を読むように心がけてください。

講義中は、適宜ポイントを示します。試験のためには、講義中のポイントを整理しておいてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	情報処理学	講義曜日	月	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	岩淵 正則	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	IPADを利用し、日常業務の問題解決の手法を取得する。 IPADの基本的な操作を通じ情報リテラシー能力を高める。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	IPADの基本ソフトウェアである、IOSの構成を理解し、適切に使用することができる。 ワードソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、それぞれのアプリケーションソフトウェアの基本操作を理解しながら利用することができる。 インターネットの使い方を理解し、ネチケットなどのマナーを守り、著作権などの知的財産権の仕組みを理解する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	情報処理学の基礎				
2	文章の入力、ファイルの保存				
3	ビジネス文書の入力				
4	表計算（EXCEL）の基本操作				
5	関数を使った計算式①				
6	関数を使った計算式②				
7	プレゼンテーションの操作				
8	プレゼンテーションの発表				

**講義方法**

IPADを使って実習形式で行う。

**講義で使用する機器・教材**

スクリーン、プロジェクター

**履修上の注意事項**

実習にて、毎回提出物が発生しますので、確実に提出してください。

**成績評価方法**

毎回の提出物の提出状況と提出内容で評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

30時間でマスター「Office2019」実教出版

**予習復習のアドバイス**

テキストを事前に読んでおくこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	工学	講義曜日	金	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	岩淵 正則	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	力学の基礎を通じて科学的・論理的思考力を身に付け、理論から実際の物作りへの応用力を養うことを目標とする。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	運動力学の基礎となる力学の基礎を学び、続いて制御の仕組みや機械の機構による運動の伝達部分の基礎を理解する。また、アクチュエータによって操作される運動系を理解し、現在の介護ロボットの仕組みについて理解することを到達目標とする。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	いろいろな運動				
2	さまざまな力				
3	力の合成と分解				
4	運動方程式				
5	力のモーメント				
6	運動エネルギーと仕事				
7	電気工学の基礎				
8	期末試験				

**講義方法**

板書中心で進めるが、随時過去の国家試験問題の解答解説や関連資料のプリントを配布する。

**講義で使用する機器・教材**

教科書・ノートなど。

**履修上の注意事項**

板書内容をノートに記入し、わからないことは遠慮なく質問すること。

**成績評価方法**

定期試験と提出物、出席率で評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

PT・OTゼロからの物理学（羊土社）

**予習復習のアドバイス**

高校の物理Ⅰが基礎となる。最初からの積み重ねが大事であるので、欠席のないようにお願いしたい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	フレッシュマンセミナー	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	籠倉 暁、左右田 博	実務経験	左右田：医療機関に15年、理学療法士として勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年理学療法士として勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学習者としての姿勢を学び、同じ目標をもった仲間や教員など他者と協働して目標を達成する姿勢を培うことを取得するとともに、理学療法士という職業選択について、その実現に向けた計画を設計する。				
	<b>到達目標</b>				
	①理学療法士に必要な基本的能力を達成目標として熟知し、自身の課題解決に向けて行動することができる。 ②社会で求められている能力や態度を学び、自律的なキャリア形成に対する意識醸成をはかる。 ③今後の学生生活をどう送るか、理学療法士として在りたい姿を考え、キャリアビジョンを描く。				
回数	講義内容				
1	学科オリエンテーション（医療学生としての心得）				
2	理学療法士の理解				
3	学内設備、医療機器の説明				
4	基礎学力・表現力向上に向けて				
5	志望動機の整理①（自己紹介など）				
6	志望動機の整理②（自己紹介など）				
7	基礎学力試験①				
8	基礎学力試験②				
9	キャリアとは何か、なぜキャリアを考える必要があるのかを伝え、自身のキャリアを考えるために、ジョブ・カードに性格、価値観、強みを書き出し、自己理解を深める。				
10	社会で求められる力とは何か、社会で求められるコミュニケーションをワークを通して確認し、社会人基礎力のチェックを行う。後半自己PR作成を行う。				
11	卒業後の理学療法士像を考える。なぜ理学療法士を目指そうと思ったのか、魅力は何か、どのような理学療法士になりたいのかを確認する。				
12	理学療法士のキャリア形成について①（グループワーク、体験談、質問）				
13	理学療法士のキャリア形成について②（発表、個人ワーク）				
14	理学療法士についての理解				
15	自身の理学療法士像の具体化				

**講義方法**

講義、体験、面談、発表

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

積極的に授業に参加してください。

**成績評価方法**

出席

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

プリント配布

**予習復習のアドバイス**

意欲的に参加しましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	1学年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	スポーツ学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	川口 鉄二	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人間のスポーツ運動の捉え方を理解することで、心身ともに健康に生活していくために必要な実践力を身に付ける。				
	<b>到達目標</b>				
	人間の運動発生の概要を理解し、健康と動ける身体の実践力を身に付ける。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション スポーツ学とは				
2	スポーツ実践で生じる諸問題 問題解決のために求められる理論				
3	スポーツにおける科学知と実践知 物質身体と現象身体の違い				
4	日本のお家芸種目の誕生とその背景 加納治五郎と金子明友				
5	動作・仕草の中にかたちを見る マイネル運動学の台頭				
6	運動の鋳型化を生み出す運動認識とは 身体運動に対する睥睨の眼差し				
7	人間のものの見方と錯覚現象 正しい見方に求められる根拠				
8	意識と結びついた運動の理會 ゲーテの形態学とユマニチュード				
9	人間運動の分析法 映画記録法の発展				
10	スポーツの技術分析論 動き方を伝えるキネグラムの作成				
11	生涯スポーツの国際比較 Turnfestに見るスポーツの楽しさ				
12	動きの形成位相を知る 「わかる」と「できる」の違い				
13	スケートにおける動感発生の体験実習①				
14	スケートにおける動感発生の体験実習②				
15	まとめとテスト				

**講義方法**

対面形式によるプレゼンテーション及び実習

**講義で使用する機器・教材**

PC プロジェクター，携帯端末など。

**履修上の注意事項**

毎時間の講義内容は時間終了前にまとめて提出

**成績評価方法**

試験得点と毎回のレポート内容による

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**参考書**

コツとカンの運動学 大修館

**予習復習のアドバイス**

授業内容は自らの経験にあてはめながら理解するように。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	江崎 浩明	実務経験	産業・学校・医療領域にて相談業務約17年間		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人間関係に影響を与える要因について学び、日常生活に活かす。				
	<b>到達目標</b>				
	①人間関係構築スキルの基礎要件である自己について理解を深める。 ②他者を理解・判断する際に用いられる内的基準の個人差について理解を深める。 ③人と人が惹かれる・別れる理由について理解を深める。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間関係論における、心理学的・社会的アプローチの違い				
2	自己Ⅰ 自己理解、1対1、1対多				
3	自己Ⅱ 自己呈示、自己開示、自己受容				
4	対人認知Ⅰ 暗黙の人格観、ステレオタイプ				
5	対人認知Ⅱ ハロー効果、中心特性語				
6	対人魅力と別離Ⅰ 類似説と相補説、結婚と離婚				
7	対人魅力と別離Ⅱ 離婚とその影響、再婚				
8	試験				

**講義方法**

プリント（PDF共有）とパワーポイントを併用して進める。  
前後左右のクラスメートとの意見交換

**講義で使用する機器・教材**

PC、iPad

**履修上の注意事項**

講義で使用するPDFファイルの管理

**成績評価方法**

定期試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

なし（配布されるPDFファイル）

**予習復習のアドバイス**

学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えましょう。

"覚える"ことも必要ですが、"考える"ことも重要視してください。

## 講義要項（シラバス）シート

<b>年 度</b>	2026年度	<b>時 期</b>	通年	<b>学 年</b>	1
<b>学 科</b>	理学療法科	<b>講義時間</b>	時間割参照		
<b>科目名</b>	医学英語	<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	8
		<b>単位時間数</b>	15	<b>単位数</b>	1
<b>講師名</b>	小宮山 与一、籠倉 暁	<b>実務経験</b>	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）10年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年理学療法士として勤務。		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。				
	<b>到達目標</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床で用いられる英単語や略語を理解し、用いることができる。</li> <li>2. 医学英語で用いられる接頭語や解剖・運動学用語を理解できる。</li> </ol>					
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>				
1	理学療法に関する医学用語 運動方向を表す解剖学用語				
2	人体各部の医学英語名称 骨・関節（1） 上肢				
3	人体各部の医学英語名称 骨・関節（2） 上肢				
4	人体各部の医学英語名称 骨・関節（3） 上肢				
5	人体各部の医学英語名称 骨・関節（4） 下肢				
6	人体各部の医学英語名称 骨・関節（5） 下肢				
7	人体各部の医学英語名称 骨・関節（6） 下肢				
8	人体各部の医学英語名称 まとめ、テスト				

**講義方法**

プリント及びスライドでの講義。適宜課題を提示します。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

基礎的な医学用語・英語名称を勉強していくため、毎授業出席し用語の使用に慣れてること。

**成績評価方法**

期末試験100%

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

- ・標準理学療法学作業療法学「解剖学」医学書院
- ・ステッドマン医学辞典（英和・和英）
- ・理学療法科学シリーズ 運動解剖生理学ワークブック 第2版 アイペック

**予習復習のアドバイス**

各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。

他科目での理解・復習が必要になりますので事前に確認しておくこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖学（前期狩野15+後期高田23）	講義曜日	時間割参照	講義回数	38
		単位時間数	75	単位数	5
講師名	狩野 充浩、高田 拓明	実務経験	歯科医師、理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる解剖学の中で運動器系（骨、関節）内臓、組織系（ <b>前期狩野分</b> ）と中枢神経、末梢神経、脈管系、感覚器系（後期高田分）について基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できること。				
	<b>到達目標</b>				
		主な内臓の構造と全身の骨の形態、関節の構造等について正しく解剖学的に理解ができること。 （重要な注意）授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです。（狩野分）			
回数	講義内容				
1	体の区分け方向用語、名称（第1章、解剖学総論Ⅰ、Ⅱ）				
2	骨学、関節総論（第2、3章、骨格総論、関節靭帯総論）				
3	骨学各論（1.上肢）（第2章P58-） 細胞組織系（GW課題の内容）				
4	骨学各論（2.体幹）（第2章P48-）				
5	骨学各論（3.頭頸部）（第2章P36-）				
6	骨学各論（4.下肢）（第2章P68-）				
7	骨学各論（5.下肢）、関節1（頭部）（第2章P68-、第3章P102.103）				
8	関節各論（2.体幹、下肢）（第3章P103-、126-）				
9	関節各論（3.下肢、上肢）（第3章P126-、112-）				
10	関節各論（4.上肢）（第3章P112-）				
11	内臓系（1.消化器）（第9章P371-）				
12	内臓系（消化器②、2.呼吸器）（第9章P371-、第8章P359-）				
13	内臓系（呼吸器②、3.泌尿器）（第8章P359-、第10章P389-）				
14	内臓系（4.男性生殖器）（第10章P389-）				
15	内臓系（男性生殖器②5.女性生殖器）（第10章P389-）				
16	感覚器系総論，小テスト，課題				
17	感覚器系各論（視覚），小テスト，課題				
18	感覚器系各論（嗅覚），小テスト，課題				
19	感覚器系各論（味覚，皮膚感覚他），小テスト，課題				
20	感覚器系まとめ小テスト，課題				
21	神経系総論，小テスト，課題				
22	末梢神経系総論，小テスト，課題				
23	末梢神経系各論（神経構造・脳神経），小テスト，課題				
24	末梢神経系各論（反射弓・神経叢），小テスト，課題				
25	末梢神経系各論（自律神経他），小テスト，課題				
26	末梢神経系まとめ小テスト，課題				
27	中枢神経系総論，小テスト，課題				
28	中枢神経系各論（脳），小テスト，課題				
29	中枢神経系各論（脊髄），小テスト，課題				
30	中枢神経系各論（伝導路他），小テスト，課題				
31	中枢神経系まとめ小テスト，小テスト，課題				
32	脈管系総論，小テスト，課題				

33	脈管系各論・心臓の構造, 小テスト, 課題
34	脈管系各論・冠動脈他・小テスト, 課題
35	脈管系各論・動脈系 (脳血管系, 体循環他), 小テスト, 課題
36	脈管系各論・静脈系, 小テスト, 課題
37	脈管系各論・リンパ系, 小テスト, 課題
38	16回~37回総まとめ小テスト, 期末試験対策, 課題
<b>講義方法</b> パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である。 (特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです。 <b>狩野分</b> ) 16回目以降の講義は、小テスト→スライド講義→課題グループワークの順で行う。事前配布の講義資料を基に小テスト実施 (高田分)	
<b>講義で使用する機器・教材</b> パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定	
<b>履修上の注意事項</b> 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である。(専門科目の心得、(あくまでも1つのヒントです)) 1、該当項目の教科書を読んでくる。 2、授業で理解に努める。(実際にここで100%は無理です) 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する。 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする。(これも1回ではなかなかできません)	
<b>成績評価方法</b> 前期試験(狩野分40%) + 後期評定(高田分60%) 合算して評定、再試は別々 ( <b>狩野分、高田分</b> ) に実施 授業態度 ( <b>近年授業中の内職が大変多いので、悪質な場合違反行為とみなします</b> )、課題提出状況等も考慮 ★作業療法科の解剖学は前後期の半期科目なので、同内容の授業、試験でも細かい評定が異なる場合があります。	
<b>教科書・参考書</b> PTOT標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第6版) 日本人人体解剖学 (第20版)	
<b>予習復習のアドバイス</b> 解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てくるので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨床実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できません。例年成績が振るわない人は授業外での学習時間が少なすぎます。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	解剖生理学演習（第1+第2段階）	講義曜日	時間割参照	講義回数	30（45分）
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	国試対策を前提として解剖、生理学の国試問題演習を実施する。演習を通して学生自身の弱点把握→克服のための重点的学習→個々の学生に応じた学習底上げが目標、国試演習に入る前段階はワークブックを用い、専門科目の学習に慣れるよう準備する。（ワークブック答えは事前に回収、終了後に返却）				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	ワークブック（第1段階）予習→確認テスト、採点、解説、次の国試過去問演習（第2段階）事前国試問題を提示（10問目安）→自分で解いてくる（毎回説明者を指定）、他の人に説明できる解答、解説をつける。→毎回、事前課題として提出という2段階の流れを経て、専門科目対応力を習得する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	（第1段階）やり方説明、ワークブック確認テスト1、採点解説				
2	ワーク確認テスト2、採点解説				
3	ワーク確認テスト3、採点解説				
4	ワーク確認テスト4、採点解説				
5	ワーク確認テスト5、採点解説				
6	ワーク確認テスト6、採点解説				
7	ワーク確認テスト7、採点解説				
8	ワーク確認テスト8、採点解説				
9	ワーク確認テスト9、採点解説				
10	第1段階 復習確認テスト				
11	（第2段階）国試問題演習.1、解説45分（国試）				
12	国試問題演習.2、解説45分（国試）				
13	国試問題演習.3、解説45分（国試）				
14	国試問題演習.4、解説45分（国試）				
15	国試問題演習.5、解説45分（国試）				
16	国試問題演習.6、解説45分（国試）				
17	国試問題演習.7、解説45分（国試）				
18	国試問題演習.8、解説45分（国試）				
19	国試問題演習.9、解説45分（国試）				
20	国試問題演習.10、解説45分（国試）				
21	国試問題演習.11、解説45分（国試）				
22	国試問題演習.12、解説45分（国試）				
23	国試問題演習.13、解説45分（国試）				
24	国試問題演習.14、解説45分（国試）				
25	国試問題演習.15、解説45分（国試）				
26	国試問題演習.16、解説45分（国試）				

27	国試問題演習.17、解説45分（国試）
28	国試問題演習.18、解説45分（国試）
29	国試問題演習.19、解説45分（国試）
30	国試問題演習.20、解説45分（国試）
<b>講義方法</b>	
<p>毎回あらかじめ国試問題を提示→説明をつけて課題として提出（順次ローテーションで説明者を指定）、各回の問題演習は前もって必ず課題として提出。その前の第1段階では、毎回各章の確認テスト→その場で採点→解説を行いません。課題の未提出や欠席はマイナス、夏季、冬季休暇には必ず課題があります。</p>	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
<p>パワーポイント、配布印刷物、 Terms使用予定</p>	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（重要）授業の課題等は1つのファイルにまとめて、すぐ確認できるようにしましょう。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>出欠、通常課題提出状況、確認テスト、休暇中の課題提出等を総合的に評定する。第1段階終了後に復習確認テスト、すべて終了後に最終課題確認試験（60点満点）を実施します。</p>	
<b>授業態度（近年授業中の内職が大変多いので、悪質な場合違反行為とみなします）</b>	
<b>教科書・参考書</b>	
<p>新訂版ニューワークブック解剖生理学（サイエ出版）</p>	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎専門科目（解剖、生理学）の問題演習、最初はワークを使用して、専門科目学習に慣れることを目標にします。</li> <li>・その後国試問題演習の積み重ねにより、今後の国試対策、模試の受験等に役立つことを目標にします。</li> </ul> <p><b>例年成績が振るわない人は授業外での学習時間が少なすぎます。</b></p>	

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	体表解剖学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	小宮山 与一、籠倉 暁	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）10年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年理学療法士として勤務。）		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	骨格筋の用語及び構造を理解する。構造理解について、3次的に理解するために体表から筋や骨を触察し描写する技術や断層解剖の理解を経験する。				
	<b>到達目標</b>				
	①骨格筋の名称、形態及び位置関係を理解する。 ②骨格筋と骨格を用紙に描写できる。 ③骨格筋と骨を対象学生の体表から触り分け、体表上に描写し、構造を立体的にイメージすることができる。 ④断層解剖を理解することで骨格筋の重なりや位置関係をイメージすることができる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	体表解剖の学び方と体験				
2	体表解剖の学び方と体験				
3	頭頸部				
4	肩甲帯				
5	前胸部				
6	上腕				
7	前腕・手指				
8	下部体幹				
9	大腿前面				
10	大腿後面・殿部				
11	下腿前面・足部				
12	下腿後面・足部				
13	実習：肩甲骨・頸部の触診				
14	実習：上肢帯前面				
15	実習：上肢帯後面				
16	実習：前腕の触診				
17	実習：下腿前面の触診				
18	実習：下腿後面の触診				
19	実習：大腿前面・膝の触診				

20	実習：大腿後面・内側面の触診
21	実習：鼠径部・臀部
22	断層解剖の理解とエコーの活用
23	まとめ・試験
<b>講義方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での講義と実習室での実習の形式で行う。</li> <li>・実習の服装として、実習着もしくは肌を露出できる半袖とするが、授業前に指示をする。</li> <li>・実習の準備物として、各自バスタオルを持参する。</li> </ul>	
<b>講義で使用する機器・教材</b> ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン	
<b>履修上の注意事項</b> 実習の時間は、半袖、ハーフパンツで参加すること。	
<b>成績評価方法</b> 筆記試験：40点、実技試験：60点 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢、下肢・体幹 MEDICAL VIEW</li> <li>・理学療法科学シリーズ 運動解剖生理学ワークブック 第2版 アイベック</li> </ul>	
<b>予習復習のアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学、運動学と関連させて学習すること。</li> <li>・覚えるまで繰り返し学習することが重要です。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	生理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	狩野 充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	前期に引き続いて臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする。				
	<b>到達目標</b>				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする。 (重要な注意) 授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです。(問題演習はIpad使用)				
回数	講義内容				
1	生理学の導入、細胞の働き (1章P1-)				
2	骨の生理学 (10章P163-)				
3	筋の生理学 (1) (4章P37-)				
4	筋の生理学 (2) (4章P37-)				
5	血液の生理学 (14章P235-)				
6	体液の生理学 (18章P321-)				
7	循環の生理学 (1、血圧、血管機能) (15章P262-282)				
8	循環の生理学 (2、血圧、血管機能) (15章P262-282)				
9	循環の生理学 (3、心臓機能) (15章P249-261)				
10	循環の生理学 (4、心臓機能) (15章P249-261)				
11	体温調節機能 (19章P331-)				
12	免疫の仕組みと働き (14章P244-)				
13	咀嚼、嚥下、消化、吸収 (1) (13章P213-)				
14	咀嚼、嚥下、消化、吸収 (2) (13章P213-)				
15	排尿、排泄 (17章P303-)				
16	睡眠、感覚の生理学 (1) (5章P59-、8章P125-128)				
17	感覚の生理学 (2) (5章P59-)				
18	感覚の生理学 (3) 栄養と代謝 (1) (5章P59-、11章P201-)				
19	栄養と代謝 (2) (11章P201-)				
20	呼吸生理 (15章P281-)				
21	生殖機能 (10章P184-)				
22	神経の基本機能 (1) (2章P13-)				
23	神経の基本機能 (2) (2章P13-)				
24	内分泌系 (1) (9章P139-)				
25	内分泌系 (2) (9章P139-)				
26	神経系の機能 (1) (4章P52-)				
27	神経系の機能 (2) (6章P91-)				
28	神経系の機能 (3) (8章P121-)				

29	神経系の機能（４）（８章P121-）
30	神経系の機能（５）（７章P99-）
<b>講義方法</b> パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う。 解剖学同様、課題を出す予定です。	
<b>講義で使用する機器・教材</b> パワーポイント、配布印刷物、Terms使用予定	
<b>履修上の注意事項</b> 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である。（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです）） 1、該当項目の教科書を読んでくる。 2、授業で理解に努める。（実際にここで100%は無理です） 3、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する。 4、問題演習等で、きちんと出力できるようにする。（これも1回ではなかなかできません）	
<b>成績評価方法</b> 前期試験+後期試験（→合算で最終評定）課題加算予定有、前期試験でも再試有、（OKなら前期60点、不可は最初の点数） 授業態度（近年授業中の内職が大変多いので、悪質な場合違反行為とみなします）、課題提出状況等も考慮 ★作業療法科の生理学は前後期の半期科目なので、同内容の授業、試験でも細かい評定が異なる場合があります。	
<b>教科書・参考書</b> シンプル生理学改訂第8版（南江堂） やさしい生理学改訂第6版（南江堂）	
<b>予習復習のアドバイス</b> ・解剖学的構造と生理学的機能は密接に関連する場合が多いので両者は関連づけて学習するようにしましょう。 ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかりと行ないましょう。 <b>例年成績が振るわない人は授業外での学習時間が少なすぎます。</b>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1学年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	37.5回
		単位時間数	75	単位数	5
講師名	和地辰紀、井澤真一、上村太一	実務経験	一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	ヒトの正常な運動とその仕組みに関して理解する。				
	ヒトの正常な姿勢・動作を理解し、動作分析ができる。				
	<b>到達目標</b>				
適切な用語を用いて身体運動、正常動作の説明ができる。					
運動器の構造と機能が説明できる。					
動作観察によりその動作の特徴を説明することができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	和地 運動学の定義・表現の基本				
2	和地 神経筋骨格系の機能（骨・関節）				
3	和地 神経筋骨格系の機能（筋）				
4	和地 神経筋骨格系の機能（神経）				
5	和地 神経筋骨格系の機能（腱・靭帯）				
6	和地 筋の収縮形態				
7	和地 運動学習、生体力学				
8	井澤 姿勢				
9	井澤 正常動作（寝返り）				
10	井澤 正常動作（起き上がり）				
11	井澤 正常動作（起立）				
12	和地 肩関節				
13	和地 肩関節				
14	和地 肘関節				
15	和地 手関節				
16	和地 手部				
17	井澤 股関節				
18	井澤 股関節				
19	井澤 股関節				
20	井澤 膝関節				
21	井澤 膝関節				
22	井澤 膝関節				
23	井澤 足関節				
24	井澤 足関節				
25	井澤 足関節				
26	上村 正常歩行				
27	上村 正常歩行				
28	上村 正常歩行				
29	上村 異常歩行				
30	上村 異常歩行				
31	上村 脊柱				

32	上村 脊柱
33	上村 脊柱
34	上村 顔面
35	上村 顔面
36	和地 発達
37	和地 発達
38	中間テスト (0.5コマ分) 筋の起始・停止・神経支配・髄節・・・夏季休暇明けの予定 (時間割参照)
<b>講義方法</b> 対面講義	
<b>講義で使用する機器・教材</b> ホワイトボード、プロジェクター、PC等	
<b>履修上の注意事項</b> 講義が中心ですが、途中で確認の時間を設けます。その際は同じグループ内の学生と積極的に関わりを持つこと。 実際に動作を行いながら確認することもありますので、動きやすい服装で受講してください。	
<b>成績評価方法</b> 学期末考査 (中間テストも含む) において総合的に評定します。 得点配分 (学期末考査) : 和地40点、井澤35点、上村25点、中間テスト (講義が終えた内容) 100点 S:90~100点、A: 80~89点、B: 70~79点、C: 60~69点、D: 60点未満	
<b>教科書・参考書</b> 基礎運動学 医歯薬出版株式会社 配布資料	
<b>予習復習のアドバイス</b> 講義で学習したことをしっかりと復習し、わからないことは積極的に質問すること。 解剖学、生理学と重複する内容もあるため、解剖学、生理学の復習も行うこと。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間発達学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15回
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	江崎 浩明	実務経験	産業・学校・医療領域にて相談業務約17年間		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	生まれてから亡くなるまでの生涯を通しどのように発達していくのかを各発達段階に分け、またその過程で直面する様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的な変化、発達スクリーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な”成長”と精神的な”発達”の両側面から人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。				
	<b>到達目標</b>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各発達段階と発達課題を理解し、それぞれに適した養育的・尊重的かわりができるようになる。</li> <li>2 各発達段階における標準的な成長・発達の過程を説明できるようになる。</li> <li>3 自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる。</li> </ol>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	成長と発達の違い				
2	発達概念の歴史的変遷				
3	エリクソンの漸成的発達段階の概要				
4	胎児期・周産期				
5	原始反射				
6	発達スクリーニング検査（遠城寺・デンバー）				
7	新生児・乳児期の課題（生理的早産・臨界期・気質論等）				
8	幼児前期の課題（歩行と言語獲得・分離不安等）				
9	幼児後期の課題（トイレトレーニング、性別の理解等）				
10	児童期の課題（劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等）				
11	青年期（アイデンティティーとモラトリアム、NEET等）				
12	成人前期（生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等）				
13	成人期の課題（更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等）				
14	高齢期の課題（喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等）				
15	総復習				

**講義方法**

教科書とPowerPointの併用☑

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

教科書、資料を準備して授業参加すること。

**成績評価方法**

小テストと定期試験の総合評価

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

生涯人間発達学 第2版 服部祥子 著 医学書院

**予習復習のアドバイス**

学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	大沼 英子	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く。				
	<b>到達目標</b>				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる。 ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる。 ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	細胞障害概要				
2	進行性病変①				
3	進行性病変②				
4	炎症①				
5	炎症②				
6	炎症③				
7	免疫・感染症①				
8	免疫・感染症②				
9	免疫・感染症③				
10	腫瘍①				
11	腫瘍②				
12	腫瘍③				
13	先天性疾患				
14	老化				
15	まとめ				

**講義方法**

パワーポイントのスライドを用いた講義形式  
適宜小テストを行うことがある。

**講義で使用する機器・教材**

P C、スクリーン、iPadを使用する。

**履修上の注意事項**

講義の進度や形態の変更等により講義の内容や進め方の変更が生じる場合があります。  
学習の補足のために、できるだけ振り返りと復習を心掛けて行ってください。

**成績評価方法**

小テスト、試験で総合的に評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

なるほどなっとく病理学プラス(南山堂)

**予習復習のアドバイス**

スライドでの理解が十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床心理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	江崎 浩明、水野 彩子	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床心理学の知識や技法、対人関係の視点を学び、理学療法士の実践に生かしていけるようになることを目標としている。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	臨床心理学における考え方や技法の基礎を身に付ける。心理療法や心理査定だけでなく、臨床心理学に関連した周辺の知識についても理解を深める。更にある臨床心理学的概念や事象について理解を深め、自分なりの関わり方をイメージできるようになることを到達目標としている。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	臨床心理的視点と医学的視点の違い、完治と寛解、元どおりと適応的变化				
2	援助のプロセス、エビデンスとナラティブ				
3	人格理論Ⅰ（Freud：精神分析）				
4	人格理論Ⅱ（Jung：分析的心理、Rogers：クライエント中心療法）				
5	発達理論（Mahler, Winnicott, Erikson）				
6	心理アセスメントⅠ（情報の収集と整理）				
7	心理アセスメントⅡ（知能検査・人格検査・発達検査・その他）				
8	心理療法Ⅰ（心理療法の基本的態度）				
9	心理療法Ⅱ（3大心理療法とその特徴）				
10	防衛機制				
11	心理療法Ⅲ（その他の心理療法）				
12	心理援助の実際Ⅰ（気分と精神的な問題）				
13	心理援助の実際Ⅱ（発達のな問題）				
14	心理援助の実際Ⅲ（行動上の問題とかかわるということ）				
15	考査と解説				

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材**

教科書・プリント・パソコン・プロジェクター

**履修上の注意事項**

教科書、授業資料を忘れずに準備すること。

**成績評価方法**

考查（100％）

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

心とかかわる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版]

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著 ナカニシヤ出版

**予習復習のアドバイス**

心理的な問題や困難な状況は日常的に誰でも体験しうるものが多いため、単なる記号的な知識や価値の定まった概念として学ぶのではなく学ぶのではなく、学んだことは実際の生活場面においてどのように表れているか、活用されるかを意識する視点を持ってもらいたい。将来、理学療法士として活動する際、学んだこととどのような形で関わることになるか、どう活用できるか、とイメージしながら学習することが理想である。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026 年度	時 期	通年	学 年	1学年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	救急医学/救命救急医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	工藤、古川、吉崎伸一、上遠野	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。				
	心肺蘇生・応急処置について学ぶ。				
	災害時におけるリハビリテーション職種の役割を理解する。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	①救急医療体制について説明できる ②患者の急変時での基礎的な観察・処置を理解する。				
	③心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる。				
	④自己決定支援（ACP）について理解する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	救急医療体制について、災害医療				
2	ショックの病態と身体所見、脳死関連				
3	重症外傷と重症熱傷				
4	心肺蘇生・AED				
5	大規模災害時における活動内容の概要				
6	大規模災害時における活動内容の概要				
7	アドバンスケアプランニング（ACPについて）				
8	アドバンスケアプランニング（ACPについて）				

<p><b>講義方法</b> パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式 BLSについての実技演習 災害時の活動内容の概要を知るために、多職種によるチームビルディング演習等</p>
<p><b>講義で使用する機器・教材</b></p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p>
<p><b>成績評価方法</b> 小テスト、課題、レポート等で総合評定する。 成績は、下記の基準で評定する。S（100点～90点）、A（89点～80点）B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（60点未満）、S～Cは合格、Dは不合格とする。</p>
<p><b>教科書・参考書</b> 特になし。</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p>

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	病理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	大沼 英子	実務経験	歯科医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く。				
	<b>到達目標</b>				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる。 ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる。 ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	病気とは 病理学とは				
2	病態と病因①				
3	病態と病因①				
4	病態と病因③				
5	病態と病因④				
6	病因と病態⑤				
7	病因と病態⑥				
8	病因と病態⑦				
9	代謝と代謝異常・退行性病変①				
10	代謝と代謝異常・退行性病変②				
11	代謝と代謝異常・退行性病変③				
12	循環と循環障害①				
13	循環と循環障害②				
14	循環と循環障害③				
15	まとめ				

**講義方法**

パワーポイントのスライドを用いた対面講義  
適宜小テストを行うことがある。

**講義で使用する機器・教材**

講義形式P C、スクリーン、iPadを使用する。

**履修上の注意事項**

講義の進度や形態の変更等により講義の内容や進め方の変更が生じる場合があります。  
学習の補足のために、できるだけ振り返りと復習を心掛けて行ってください。

**成績評価方法**

小テスト、試験で総合的に評定する

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

なるほどなっとく病理学プラス(南山堂)

**予習復習のアドバイス**

スライドでの理解が十分でない場合は、教科書、参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	リハビリテーション概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	金子 亮太郎	実務経験	理学療法士として、病院勤務18年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーションの歴史、医学、医療について理解できる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの歴史、理念、定義、医学、医療について説明できる。</li> <li>2 障害構造について、ICIDHやICFで説明できる。</li> <li>3 リハビリテーションに関わる職種について説明できる。</li> <li>4 リハビリテーションに関わる評価等を理解している。</li> </ol>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	リハビリテーションの概念				
2	急性期・回復期のリハ				
3	生活期のリハビリテーション				
4	チーム医療				
5	国際障害分類（ICIDH）				
6	国際生活機能分類（ICF）				
7	理学療法				
8	作業療法				
9	言語聴覚療法				
10	神経心理リハビリテーション				
11	義肢・装具・車椅子				
12	栄養とリハビリテーション				
13	歩行評価				
14	機能・能力評価				
15	日常生活動作評価				

**講義方法**

対面授業

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター

**履修上の注意事項**

復習をしっかりと行うようにしてください。

**成績評価方法**

試験

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

(参考書) 真柄彰・鴨下博 編著.リハビリテーション概論.理工図書,2020

椿原彰夫.リハビリテーション総論.診断と治療社,2021

**予習復習のアドバイス**

繰り返し学習し、知識を定着させましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	川口 晴美	実務経験	28年:医療機関5年、介護機関23年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法及び理学療法士の概略を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	1. 理学療法の定義や役割について説明できる。 2. 理学療法プロセスや治療手段が説明できる。 3. 理学療法に関わる制度について説明できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	リハビリテーションと理学療法				
2	理学療法の定義と役割				
3	理学療法と障害				
4	QOLと障害受容				
5	理学療法プロセス（情報収集）①				
6	理学療法プロセス（問診）②				
7	理学療法プロセス（評価）③				
8	理学療法プロセス（ゴール設定・プログラム立案）④				
9	疾患の理学療法（脳血管障害）①				
10	疾患の理学療法（骨関節障害）②				
11	疾患の理学療法（その他）③				
12	現場の理学療法（医療機関）①				
13	現場の理学療法（介護保険）②				
14	理学療法と諸制度（医療保険、介護保険）				
15	まとめ				

**講義方法**

グループワークを多く取り入れながら講義を行います。

**講義で使用する機器・教材**

教科書・配布資料

**履修上の注意事項**

グループワークでは積極的に取り組み理学療法についての理解を深めてください。

**成績評価方法**

筆記試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

シンプル理学療法学シリーズ理学療法概論テキスト 改訂第4版

**予習復習のアドバイス**

予習の必要はありませんが、事前に調べ学習を課すことがありますので、しっかりと取り組んで下さい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎理学療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	和地 辰紀	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション8年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる理学療法の基本的事項について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
理学療法評価・治療に必要な代表的疾患、機能障害の病態やそのメカニズムを理解し、説明できる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	イントロダクション 理学療法士の仕事・対象・現状・活躍の場				
2	理学療法に関わる法令・制度				
3	筋力低下と筋力増強トレーニング				
4	関節可動域制限と関節可動域運動・ストレッチング				
5	バランスについて				
6	運動麻痺について				
7	疼痛について				
8	中枢神経疾患（脳卒中）について				
9	中枢神経疾患（パーキンソン病、脊髄損傷）について				
10	変形性膝関節症について				
11	スポーツ外傷（膝の靭帯損傷）について				
12	呼吸器疾患と循環器疾患について				
13	認知症、糖尿病、癌について				
14	理学療法の実際の流れ・思考				
15	エビデンス・EBM/EBPT				

**講義方法**

グループ学習、討議、発表を中心に実施します。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード

**履修上の注意事項**

主体的に行動しグループ学習で知識を定着させてください。

**成績評価方法**

学期末考査を実施し評定します。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

PTスタートガイド基礎理学療法概論、他に解剖学、生理学、運動学で使用している教科書等

**予習復習のアドバイス**

色んな教科書を見て調べてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	3
講師名	籠倉 暁、左右田 博	実務経験	左右田：医療機関に15年、籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	基礎3科目(解剖学・運動学・生理学)と理学療法の関係性を理解し、それぞれの知識の定着を図る。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	基礎3科目における問題について、解答を導きだし、その解答に対する解説を説明することができる。				
回数	講義内容				
1	基礎科目の調べ学習と問題演習1				
2	基礎科目の調べ学習と問題演習2				
3	基礎科目の調べ学習と問題演習3				
4	基礎科目の調べ学習と問題演習4				
5	基礎科目の調べ学習と問題演習5				
6	基礎科目の調べ学習と問題演習6				
7	基礎科目の調べ学習と問題演習7				
8	基礎科目の調べ学習と問題演習8				
9	基礎科目の調べ学習と問題演習9				
10	基礎科目の調べ学習と問題演習10				
11	基礎科目の調べ学習と問題演習11				
12	基礎科目の調べ学習と問題演習12				
13	基礎科目の調べ学習と問題演習13				
14	基礎科目の調べ学習と問題演習14				
15	基礎科目の調べ学習と問題演習15				
16	基礎科目の調べ学習と問題演習16				
17	基礎科目の調べ学習と問題演習17				
18	基礎科目の調べ学習と問題演習18				
19	基礎科目の調べ学習と問題演習19				
20	基礎科目の調べ学習と問題演習20				
21	基礎科目の調べ学習と問題演習21				
22	基礎科目の調べ学習と問題演習22				
23	基礎科目の調べ学習と問題演習23				

**講義方法**

グループワーク、資料作成、発表、問題演習

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、教科書、iPad

**履修上の注意事項**

各自が主体性をもって取り組むこと。

**成績評価方法**

出席、授業態度、提出物

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

シンプル生理学、解剖学、基礎運動学

**予習復習のアドバイス**

繰り返し学習し、知識を定着させましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	左右田 博、籠倉 暁、佐藤 美加	実務経験	左右田：医療機関に15年。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法学生としての自己管理、マネジメントの必要性について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
①理学療法学生とし、自己管理の必要性を理解し理学療法士を目指す学修者として自己管理ができる。 ②コンプライアンス（法令遵守）、個人情報保護法、理学療法倫理について理解する。 ③見学実習に向け、感染対策及び情報管理ができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	理学療法学生としての自己管理①（学修要項の説明、時間割・シラバスの見方など）				
2	理学療法学生としての自己管理②（学習方法、スケジュール管理など）				
3	理学療法管理学総論				
4	理学療法士と政策、社会保障制度について				
5	法令遵守（コンプライアンス）について				
6	理学療法士の職業倫理				
7	見学実習における感染対策と個人情報保護				
8	まとめ				

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

課題は提出期限厳守です。

**成績評価方法**

課題（100％）※課題には今未来手帳の記載状況が含まれます。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

今未来手帳

**予習復習のアドバイス**

今未来手帳を毎日持ち歩き、期末試験や課題の提出期限を意識した生活を送りましょう。また、毎日、今未来手帳に日々の勉強量を記録しましょう。その記録状況を成績評価に組み入れます。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法科評価学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	37.5
		単位時間数	75	単位数	5
講師名	川口 晴美、日下 優	実務経験	川口：医療機関5年、介護機関23年 日下：医療機関（病院）8年、介護老人保健施設2年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法評価の定義や目的を理解し、各検査測定項目の概要を理解する。 代表的な測定法である形態測定や徒手筋力検査法を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	①理学療法評価の定義や目的を理解する。 ②理学療法の評価過程を理解する。 ③形態測定や徒手筋力検査法の意義及び目的を理解し、実施できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	総論：評価とは				
2	総論：評価の過程				
3	総論：情報収集、一般的評価事項：観察、検査、測定、臨床検査、画像検査				
4	総論：問診				
5	<b>総論：筆記試験</b>				
6	バイタルサイン：脈拍				
7	バイタルサイン：血圧				
8	バイタルサイン：意識障害、呼吸				
9	バイタルサイン：経皮的酸素飽和度、体温				
10	<b>バイタルサイン：実技テスト</b>				
11	計測の基礎：ランドマーク①				
12	計測の基礎：ランドマーク②				
13	形態計測①				
14	形態計測②				
15	形態計測③				
16	形態計測④				
17	<b>形態計測：実技テスト</b>				
18	徒手筋力検査法：概要、上肢（肩関節屈曲／伸展、外転）				
19	徒手筋力検査法：上肢（肩関節水平外転／水平内転、肩関節外旋／内旋）				
20	徒手筋力検査法：上肢（肘関節屈曲／伸展、前腕回外／回内）				
21	徒手筋力検査法：上肢（手関節屈曲／背屈）				
22	<b>徒手筋力検査法：演習</b>				
23	<b>徒手筋力検査法：演習</b>				
24	<b>徒手筋力検査法：実技テスト（上肢）</b>				
25	徒手筋力検査法：下肢（股関節屈曲、股関節屈曲・外転・外旋と膝屈曲）				
26	徒手筋力検査法：下肢（股関節伸展、股関節外転／内転）				
27	徒手筋力検査法：下肢（股関節屈曲位からの外転、股関節外旋／内旋）				
28	徒手筋力検査法：下肢（膝関節屈曲／伸展）				
29	徒手筋力検査法：下肢（足関節底屈、背屈と内がえし、内がえし、足の底屈を伴う足の外がえし）				
30	<b>徒手筋力検査法：演習</b>				
31	<b>徒手筋力検査法：演習</b>				
32	<b>徒手筋力検査法：実技テスト（下肢）</b>				

33	徒手筋力検査法：肩甲骨（肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転）
34	徒手筋力検査法：肩甲骨（肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋、広背筋）
35	徒手筋力検査法：頭頸部・胸腰部（頭部伸展、頸部伸展、頭部屈曲、頸部屈曲、体幹伸展／屈曲、回旋）
36	<b>徒手筋力検査法：演習</b>
37	<b>徒手筋力検査法：演習</b>
38	<b>徒手筋力検査法：実技テスト（肩甲骨・頭頸部・胸腰部）</b>
<b>講義方法</b> 講義、実技	
<b>講義で使用する機器・教材</b> 教科書、測定器具	
<b>履修上の注意事項</b> 原則として半袖・ハーフパンツを着用すること。ピアス、イヤリング、ネックレス、ブレスレット、腕時計、指輪などの装飾品は外すこと。 髪が肩にかかる場合は黒か茶か紺のゴムで結びまとめる。前髪は目にかからないようにすること。 爪は短く切ること（マニキュア、ネイルアート禁止）	
<b>成績評価方法</b> 筆記試験（小テスト含む）、実技試験 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b> 理学療法評価学（金原出版）、新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版）	
<b>予習復習のアドバイス</b> ・予習の際は、教科書の文章を読み、必要な知識と実技の方法を確認すること。・運動学や解剖学、実技科目と関連して学習すると相互の理解が深まります。 ・空き時間に実習室を利用し、同級生や先輩に確認してもらい習慣をつけてください。実技の方法だけでなく、基本的な知識が言えるかも確認してもらおうこと。 ・声に出して実技練習を繰り返し行うこと。例えばランドマークをしっかりと覚えた上で徒手筋力検査では筋の起始と停止を発声しながら練習を行うこと。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	日下 優、高橋 玲子	実務経験	日下：医療機関（病院）8年、介護老人保健施設2年 高橋：医療機関（病院）で7年6か月		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	①骨関節系の代表的な測定法である、関節可動域測定を習得する。 ②主に神経系に対する理解を深め、それらに対する理学療法評価を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①各検査の意義・目的が理解できる。 ②適切に検査・測定が実施できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション、関節可動域測定（概要）				
2	関節可動域測定：上肢（肩関節屈曲／伸展、外転／内転）				
3	関節可動域測定：上肢（肩関節外旋／内旋、水平屈曲／水平伸展、肘関節屈曲／伸展）				
4	関節可動域測定：上肢（前腕回外／回内、手関節掌屈／背屈、手関節橈屈／尺屈）				
5	<b>関節可動域測定：上肢 演習・確認テスト（筆記）</b>				
6	関節可動域測定：下肢（股関節屈曲／伸展、外転／内転、外旋／内旋）				
7	関節可動域測定：下肢（股関節外旋／内旋、膝関節屈曲／伸展）				
8	関節可動域測定：下肢（足関節背屈／底屈、内転／外転、内がえし／外がえし）				
9	関節可動域測定：（肩甲帯、頸部、胸腰部）				
10	<b>関節可動域測定：下肢 演習・確認テスト（筆記）</b>				
11	バランステスト				
12	バランステスト演習				
13	神経の構造と機能①				
14	神経の構造と機能②				
15	感覚の生理学				
16	感覚検査				
17	疼痛検査				
18	反射の生理学				
19	腱反射検査				
20	病的反射・表在反射検査				
21	筋緊張検査				
22	片麻痺機能検査①				
23	片麻痺機能検査②				
24	片麻痺機能検査③				
25	協調性検査①				
26	協調性検査②				

27	脳神経検査①
28	脳神経検査②
29	まとめ
30	模擬試験
<b>講義方法</b> 実技、講義	
<b>講義で使用する機器・教材</b> 教科書、測定器具	
<b>履修上の注意事項</b> 原則として半袖・ハーフパンツを着用すること。ピアス、イヤリング、ネックレス、ブレスレット、腕時計、指輪などの装飾品は外すこと。 髪が肩にかかる場合は黒か茶か紺のゴムで結びまとめる。前髪は目にかからないようにすること。 爪は短く切ること（マニキュア、ネイルアート禁止）	
<b>成績評価方法</b> 実技試験、筆記試験（小テスト含む） S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b> 理学療法評価学（金原出版）、新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版）	
<b>予習復習のアドバイス</b> ・予習の際は、教科書の文章を読み、必要な知識と実技の方法を確認すること。・運動学や解剖学、実技科目と関連して学習すると相互の理解が深まります。 ・空き時間に実習室を利用し、同級生や先輩に確認してもらい習慣をつけてください。実技の方法だけでなく、基本的な知識が言えるかも確認してもらおうこと。 ・声に出して実技練習をすること。例えば、関節可動域テストでは基本軸と移動軸を発声しながら練習を行うこと。	

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	1学年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	井澤 真一	実務経験	介護老人保健施設にて5年の臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動療法技術に関する基礎的知識と技術を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
1.基本的な運動療法の目的を説明できる 2.基本的な運動療法の原理原則を説明できる。 3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施できる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	運動療法学総論① 運動療法とは 運動の必要性と効果				
2	運動療法学総論② 運動療法の順序 トレーニングの基礎的原理				
3	リラクゼーション訓練 ストレスと生体反応 リラクゼーション訓練				
4	全身調整訓練 姿勢変化と生体反応 姿勢変化と生体反応の実際				
5	全身持久力訓練 運動と生体反応 運動療法による持久力の維持と改善				
6	関節可動域訓練① 関節の機能と障害				
7	関節可動域訓練② 関節可動域訓練				
8	関節可動域訓練③ 運動療法による関節可動域の維持と改善				
9	筋力・筋持久力訓練① 筋の機能と障害				
10	筋力・筋持久力訓練② 筋力増強訓練				
11	筋力・筋持久力訓練③ 運動療法による筋力の維持と増強				
12	筋力・筋持久力訓練④ 筋持久力訓練				
13	筋力・筋持久力訓練⑤ 運動療法による筋持久力の増強				
14	その他の運動療法①				
15	その他の運動療法②				

**講義方法**

配布資料を使った講義、実技、グループワーク、課題

**講義で使用する機器・教材**

教科書・iPad

**履修上の注意事項**

実技を行うので、実技にふさわしい身なりと動きやすい服装で参加すること。  
試験で評定する。復習をしっかりと行うように。

**成績評価方法**

期末試験で評定する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

CrossLink 理学療法学テキスト 運動療法学

**予習復習のアドバイス**

授業でわからないときは、教員に質問してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	物理療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 美加	実務経験	医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種物理療法（温熱療法）の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①物理療法（温熱療法）の種類を説明できる。 ②物理療法（温熱療法）の適応、禁忌、実施方法について説明できる。 ③物理療法（温熱療法）を実際に使用する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	物理療法の歴史・展望				
2	温熱療法（1）～温熱の生理的反応①				
3	温熱療法（2）～温熱の生理的反応②				
4	温熱療法（3）～温熱療法総論				
5	温熱療法（2）～伝導熱（ホットパック）				
6	温熱療法（3）～伝導熱（パラフィン浴）				
7	温熱療法（3）～輻射熱（赤外線）				
8	温熱療法（3）～エネルギー変換熱（極超短波）				
9	温熱療法（4）～エネルギー変換熱（超短波）				
10	温熱療法（5）～エネルギー変換熱（超音波）①				
11	温熱療法（6）～エネルギー変換熱（超音波）②				
12	演習（1）				
13	演習（2）				
14	演習（3）				
15	まとめ				

**講義方法**

講義、実技

**講義で使用する機器・教材**

その都度、係を通じて連絡します。

**履修上の注意事項**

演習を行う際は、肌を露出するため、Tシャツやハーフパンツで授業に参加してください。

**成績評価方法**

モノグサアプリの実施状況（60）、筆記試験（20）、課題（20）

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

15レクチャー理学療法テキスト 物理療法学・実習

**予習復習のアドバイス**

教科書にて予習復習を行い、理解を深めてください。内容の記憶にはモノグサアプリを使用してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	見学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	4
		単位時間数	40	単位数	1
講師名	籠倉 暁、左右田 博	実務経験	左右田：医療機関に15年、籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、介護支援施設に2年、		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<p>1. 現場での仕事における目標や職場の理念などに関する講義を通して、</p> <p>①理学療法士の責任・役割について学ぶ。</p> <p>②医療サービスとしての接遇やコミュニケーションの重要性について学ぶ。</p> <p>2. 理学療法士と対象者との生き生きとした関わりの場面を見学させていただくことで、</p> <p>①理学療法士の役割と責任について知る。</p> <p>②理学療法士となる目的への意識と学習意欲の向上を図る。</p> <p>3. コンティニュー・ケア・ネットワークのモデルを見学することで、</p> <p>①医療保険から介護保険・地域までの一連のリハビリテーションの流れを知る。</p> <p>②病期別のリハビリテーションの特徴を知る。</p>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	医療法人松田会（病院及び老健）見学(8時間)				
2	各施設見学（24時間）				
3	萩の郷福祉工場(身体障害就労支援) 見学（4時間）				
4	その他 見学(4時間)				
<b>講義方法</b>					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<b>成績評価方法</b>					
<p>実習に関する最終評定は、出席状況や参加態度などを総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。</p> <p>S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満</p>					
<b>教科書・参考書</b>					
<b>予習復習のアドバイス</b>					

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度		時期	前期	学年	2
学科	理学療法科		講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション論		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			総時間数	30	単位数	2
講師名	江崎 浩明、佐藤 美加		実務経験	江崎：産業・学校・医療領域にて相談業務約15年間。佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>					
	理学療法学生として社会人のマナーを身につけ、さらには臨床実習に向け患者・実習指導者などの考えを認知・共感・理解し、有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。					
	<b>到達目標</b>					
	①社会人としてのマナーを身につける。					
	②臨床で使用するコミュニケーションスキルを身につける。					
回数	講義内容					
1	対人援助職のリアリティショックやバーンアウト、感情労働、心的報酬					
2	言語と非言語のコミュニケーション					
3	メタ認知能力、セルフモニタリング					
4	社会人基礎力 時間・健康・感情管理					
5	ストレスとストレスマネジメント					
6	怒りと攻撃行動・怒りと悲しみ					
7	対人援助のコミュニケーション					
8	まとめ (0.5)					
9	マナーとしてのコミュニケーション①（挨拶、訪問）					
10	マナーとしてのコミュニケーション②（電話、電子メール）					
11	マナーとしてのコミュニケーション③（オンライン、お礼状）					
12	臨床で使用するコミュニケーションスキル①（医療面接、質問の仕方）					
13	臨床で使用するコミュニケーションスキル②（話す・聴く技術）					
14	臨床で使用するコミュニケーションスキル③（認知症や失語症の方とのコミュニケーション）					
15	臨床で使用するコミュニケーションスキル④（患者さんの家族や実習指導者とのコミュニケーション）					
16	まとめ (0.5)					

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

各教員50点ずつで評定いたします。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院）

**予習復習のアドバイス**

教科書を読んで、日常生活で実践することを継続してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	生理学実習（狩野15+高田8）	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	狩野 充浩、高田 拓明	実務経験	歯科医師、理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<p>学生が1年生での生理学の講義の内容をふまえて、実際に実習で生体反応等をみることによって、生理学的な理解を深めることを目標とする。</p> <p>16-23回では、基礎の定着と2年次の疾患別理学療法の学習に応用できることを目標とする。</p>				
	<b>到達目標</b>				
	<p>各実習課題の内容について、実際に計測、データの解析、結果の考察等を行なうことによって、人体の生理学的な機能の理解と、問題解決能力を養うことができるようにする。</p> <p>16-23回では、基本的な人体の構造と機能について理解し、説明できることとします。</p>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
2	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
3	課題1のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
4	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
5	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
6	課題2のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
7	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
8	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
9	課題3のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
10	課題4のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
11	課題4のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
12	課題4のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
13	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
14	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
15	課題5のデータ採取、レポート作成（Lab Station システム）（狩野）				
16	生理学実力テスト、自己採点と自己分析、課題1：自己分析と学習目標（高田）				
17	神経系、確認テスト、グループ学習、課題2：神経系（高田）				
18	骨格筋系、確認テスト、グループ学習、課題3：骨格筋系（高田）				
19	呼吸器系、確認テスト、グループ学習、課題4：呼吸器系（高田）				
20	循環器系、確認テスト、グループ学習、課題5：循環器系（高田）				
21	消化器系、確認テスト、グループ学習、課題6：消化器系（高田）				
22	泌尿器系、確認テスト、グループ学習、課題7：泌尿器系（高田）				
23	内分泌系、確認テスト、グループ学習、課題8：内分泌系（高田）				

#### 講義方法

- ・各課題の内容に沿ってグループ毎に、データ採取、レポート作成、提出までを行って終了したものとする、Lab Station実習システムを使用する。
- ・16-23回（高田担当）：各授業、確認テスト→自己採点・分析→講義資料と課題を基にグループワーク

#### 講義で使用する機器・教材

- ・実習に使用する機材等はこちらで準備する、Lab Station実習システム以外に必要なものがあれば適宜指示する。
- ・16-23回（高田担当）：スライド、配布資料、各自教科書（グループワークで使用）

#### 履修上の注意事項

- ・実習に使用する機器類の取り扱いには細心の注意を払い、破損等がないようにすること。
- ・各回のレポートは遅延、未提出が無いようにする事、実習の欠席は他のメンバーに迷惑がかかります。
- ・16-23回（高田担当）：各回の授業開始時に確認テストをするので復習して臨むこと、課題を提出すること。

#### 成績評価方法

- ・実習態度や課題提出状況、課題の内容等を加味して課題レポート点×0.7+出席点（無欠席だと30点）で評価（狩野分）
- ・最終的には両方（狩野分、高田分）の評定は、コマ数割合に応じて合算予定（高田分は試験あり）

★この時間の過去のレポート（画像等も含む）は持ち込まないで下さい、違反行為として厳正に対応します。

#### 教科書・参考書

適宜紹介する。

#### 予習復習のアドバイス

- ・その日の実習課題に相当する部分はあらかじめ教科書等で予習すること。
- ・実際に実習で使用する機器は、数が限られる場合があるのでうまく譲りあって使用すること。
- ・機器類を使用する際は使用方法を考えて取り扱いに細心の注意を払い、破損や紛失が絶対に起こらないように気をつけること。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	2 学年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学 II	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識のうち、活動（運動）を継続するメカニズムについて習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	① 活動（運動）を継続する上で必要となるエネルギー代謝について説明できる。 ② 運動による呼吸の変化について説明できる。 ③ 運動による循環の変化について説明できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	エネルギー代謝①				
2	エネルギー代謝②				
3	エネルギー代謝③				
4	運動と呼吸①				
5	運動と呼吸②				
6	運動と呼吸③				
7	運動と呼吸④				
8	運動と呼吸⑤				
9	運動と呼吸⑥				
10	運動と循環①				
11	運動と循環②				
12	運動と循環③				
13	運動と循環④				
14	運動と循環⑤				
15	運動と循環⑥				

**講義方法**

講義、グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、スクリーン、iPad

**履修上の注意事項**

聴講するときは静かに、グループでの確認時間は積極的に参加すること。

**成績評価方法**

筆記試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

解剖学、生理学、運動学

**予習復習のアドバイス**

1年に学習した呼吸・循環の解剖学・生理学は復習して授業に臨むこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	小松 瞭、左右田 博	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動学で修得した知識をもとに体表からの視診・触診を通じて正常な関節構成体の構造と機能を確認することができる。また、動作解析装置による解析を通してさまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することができる。				
	<b>到達目標</b>				
	①実習を通じて、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解することができる。 ②運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験することができる。 ③観察・測定・分析の結果をレポートとしてまとめて発表することができる。				
回数	講義内容				
1	運動学実習ガイダンス/概要説明				
2	運動学実習ガイダンス/概要説明				
3	プレゼンテーション基礎・グループディスカッション				
4	プレゼンテーション基礎・グループディスカッション				
5	動作解析装置・床反力計 機器操作説明				
6	動作解析装置・床反力計 機器操作説明				
7	床反力計を用いたバランステスト実習・解説				
8	床反力計を用いたバランステスト実習・解説				
9	動作解析装置・床反力計による立ち上がり動作測定実習・解説				
10	動作解析装置・床反力計による立ち上がり動作測定実習・解説				
11	動作解析装置による通常歩行の動作測定実習・解説				
12	動作解析装置による通常歩行の動作測定実習・解説				
13	動作解析装置による異常歩行の動作測定実習・解説				
14	動作解析装置による異常歩行の動作測定実習・解説				
15	学生実習①				
16	学生実習①				
17	学生実習②				
18	学生実習②				
19	学生実習による測定データの解析				
20	学生実習による測定データの解析				
21	学生実習 プレゼンテーション発表				
22	学生実習 プレゼンテーション発表				
23	学生実習 プレゼンテーション発表				

**講義方法**

授業中に実習課題を提示し、その課題について個人もしくはグループで解決していく。その実習で得られた結果をレポートにまとめ、作成・提出をする。

**講義で使用する機器・教材**

三次元動作解析装置(アニマ社)、床反力計(アニマ社)、測定・解析用PC

**履修上の注意事項**

- ・ 欠課が増えると単位修得が困難になるため気を付けること。
- ・ Excel,Power Pointを使用します。各自のPCで利用できるよう準備しておくのが望ましいです。

**成績評価方法**

実習参加(操作方法・被験者対応・実習態度 他)：50点、レポート・プレゼンテーション発表：50点  
S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

基礎バイオメカニクス 第2版 山本 澄子・石井 慎一郎・江原 義弘（著）医歯薬出版株式会社

基礎運動学 第6版(第7版) 中村 隆一・齋藤 宏・長崎 浩（原著）医歯薬出版株式会社

**予習復習のアドバイス**

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。常に疑問を持ち臨むこと。個人で調べることが多くなりますので、時間に余裕を持って調べること。

運動学・バイオメカニクスを自分の体（関節）や動きでイメージする、再現すると理解が捗ります。授業でもイメージする事を意識して教えていきます。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026 年度	時 期	通年	学 年	2 年
学 科	作業療法科/理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田、木幡、堀田、川上、伊藤、大沼	実務経験	医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	近年の超高齢社会において、リハビリテーション医療における対象疾患も高齢者の抱える内科疾患を理解し、診療に当たらねばならない。そのため、各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。				
	<b>到達目標</b>				
各疾患の症候と病態生理を理解し、診断・治療・予後の経過を正しく理解できる。 日々の診療の中で、身近に接する対象者の症状から専門職としての対応を判断し、実施出来る。検査データが示す疾患の特性を認識する。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	内科臨床とリハビリテーションとの関連性				
2	症候学				
3	循環器疾患				
4	循環器疾患				
5	代謝障害				
6	代謝障害				
7	血液・造血器疾患				
8	血液・造血器疾患				
9	腎機能疾患				
10	腎機能疾患				
11	内分泌疾患				
12	内分泌疾患				
13	呼吸器疾患				
14	呼吸器疾患				
15	感染症				

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。

**講義で使用する機器・教材**

PC, Ipad

**履修上の注意事項****成績評価方法**

定期試験,出席率、授業態度から総合的に判断する。

成績は、下記の基準で評定する。S (100点～90点)、A (89点～80点) B (79点～70点)、C (69点～60点)、D (60点未満)、

S～Cは合格、Dは不合格とする。

**教科書・参考書**

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 内科学 第4版

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	整形外科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	川口 徹	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	整形外科疾患の病態・診断・治療を理解し、リハビリテーションに必要な基礎的臨床判断力を養う。				
	<b>到達目標</b>				
	主要な整外科疾患の病態・症状を説明できる。 評価・診断・画像評価・治療（保存・手術）の概要を理解できる。 整形外科の基本方針とリスク管理を説明できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	整形外科概論、基礎知識				
2	外傷				
3	末梢神経損傷				
4	脊髄損傷1				
5	脊髄損傷2				
6	骨・軟部腫瘍				
7	大腿骨頸部骨折、変形性関節症、関連手術				
8	関節リウマチとその辺縁疾患				
9	脊椎疾患（椎間板ヘルニア、脊椎症を含む）				
10	小児の整形外科疾患				
11	肩関節疾患（肩関節周囲炎、腱板損傷を含む）				
12	腰痛症、スポーツ損傷				
13	高齢者整形外科疾患				
14	その他の整形外科疾患1				
15	その他の整形外科疾患2				

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

定期試験,課題等で総合評定する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

医学書院 標準整形外科学第14版

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経内科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	川口 徹	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b> リハビリテーション医療において主な対象者である中枢神経疾患をはじめとする。 神経疾患の症候とその治療を理解し、適切なリハビリテーション医療を提供できるようになる。				
	<b>到達目標</b> 1、神経疾患の症候を理解する。 2、神経学的徴候診断、画像診断から神経疾患を理解する。 3、神経疾患の生活障害を理解する。 4、各疾患の臨床像を理解し、その中からOTとして取り組むべきことを模索出来る。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	序論				
2	中枢神経系の構造と機能				
3	末梢神経系の構造と機能				
4	症候学① 運動／感覚型				
5	症候学② 高次脳機能				
6	神経学的診断／ 確認テスト				
7	脳血管障害① 病巣と症状				
8	脳血管障害② 疾患の種類				
9	感染症／ 自己免疫疾患（脱髄疾患を含む）				
10	末梢神経障害／ 筋疾患				
11	脳腫瘍／ 頭部外傷				
12	水頭症／ 代謝性疾患（遺伝形式を含む）／ 脊髄疾患				
13	神経変性疾患① 運動障害を中心に				
14	神経変性疾患② 認知症を中心に				
15	頭痛／ てんかん／ 確認テスト				

**講義方法****講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

小テスト、出席状況、学期末試験等総合的に評価を行う。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

永井知代子著：「ビジュアル臨床神経学」医歯薬出版

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	小児科学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	奈良 隆寛、田中 総一郎	実務経験	医師		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	同上				
回数	<b>講義内容</b>				
1	小児の診察と先天性疾患①				
2	新生児医療				
3	脳性麻痺について				
4	発達障害について①				
5	発達障害について②				
6	障害児医療の今後①・いのちの授業について				
7	障害児医療の今後②・いのちの授業について				
8	テスト (0.5)				

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。

**講義で使用する機器・教材**

PC,lpad

**履修上の注意事項****成績評価方法**

定期試験ならびに欠席・授業態度は減点とする。

成績は、下記の基準で評定する。S（100点～90点）、A（89点～80点）B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（60点未満）

S～Cは合格、Dは不合格とする。

**教科書・参考書**

特に指定しない。

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	精神医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	江崎 浩明	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b> 精神科医療において関わる症例の疾患構造について理解する。また各疾患の治療法について概略を理解する。				
	<b>到達目標</b> 精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識出来、また精神疾患の症候とその治療について正しく理解して、理学療法士としてリハビリテーションを行う際に系統立てて考えられるようになる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	健康の定義、心の健康4要素、メンタルヘルスリテラシー、精神疾患に対する偏見、正常と異常				
2	精神医学の歴史、外因・内因・心因、脆弱性ストレスモデル、生物心理社会(BPS)モデル、ICDとDSM				
3	精神障害の診断と評価、検査（身体、神経、心理(知能・人格・発達、認知症、前頭葉機能、うつ)）				
4	脳器質性精神障害（認知症等）、中核症状と随伴症状(BPSD)、中毒・依存、てんかん				
5	統合失調症				
6	うつ病、双極性障害				
7	神経症性障害（不安、パニック、PTSD、適応障害、身体表現性）				
8	摂食障害（神経性無食欲症・新神経性大食症）、パーソナリティ障害、知的能力障害、発達障害				

**講義方法**

教科書とパワーポイント、配布プリント（PDFファイル）を併用して進める。  
前後左右のクラスメートとの意見交換

**講義で使用する機器・教材**

PC, iPad

**履修上の注意事項**

配布されるPDFファイルの保管

**成績評価方法**

定期試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

精神疾患ビジュアルブック Gakken

**予習復習のアドバイス**

臨床心理学ですでに学んでいる内容の復習

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	リハビリテーション医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐直 信彦、川口 徹	実務経験	医師/理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーション医学の基本概念と役割を理解し、対象者の機能回復と生活支援に必要な臨床的思考力を養う。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	リハビリテーション医学の目的。・対象・流れを説明できる。 心身機能・活動・参加の視点で対象者の状態を理解できる。 疾患・障害を症候的・画像診断的に理解し、それに応じたリハビリテーションの基本方針と多職種連携の役割を説明できる。				
回数					
1	リハビリテーション医学とは				
2	診断と機能評価総論総論				
3	リハビリテーションにおける治療				
4	リハビリテーション医学におけるチーム医療				
5	急性期・回復期・生活期のリハビリテーション医学・医療				
6	脳卒中のリハビリテーション医学				
7	神経疾患とリハビリテーション医学				
8	筋疾患とリハビリテーション医学				
9	呼吸循環器疾患とリハビリテーション医学				
10	小児疾患とリハビリテーション医学				
11	脊髄損傷とリハビリテーション医学				
12	運動器疾患とリハビリテーション医学				
13	ガンとリハビリテーション医学				
14	老年期障害とリハビリテーション医学				
15	リハビリテーション医療の展開				

**講義方法**

座学を中心に実施する、資料を配布する。

**講義で使用する機器・教材**

PC、Ipad

**履修上の注意事項****成績評価方法**

定期試験100%、欠席・授業態度は減点とする。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構、日本リハ医学会監修

「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」医学書院

**予習復習のアドバイス**

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	栄養学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	笹山 由貴、藤井 由智恵	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	栄養学の基礎を理解し、正しい知識を身に付ける。 栄養・代謝障害と疾病の関連及び疾病治療としての栄養管理について学修する。				
	<b>到達目標</b>				
	基本的な栄養、代謝について説明できる。 疾病の予防や治療における栄養管理について説明できる。				
回数	講義内容				
1	人間栄養学、栄養素の種類とはたらき①				
2	栄養素の種類とはたらき②				
3	栄養素の種類とはたらき③				
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝①				
5	食物の消化と栄養素の吸収・代謝②				
6	エネルギー代謝 食事と食品				
7	健康づくりと健康				
8	栄養ケア・マネジメント				
9	栄養状態の評価・判定				
10	ライフステージと栄養				
11	臨床栄養（病院食と栄養剤の種類）				
12	臨床栄養（疾患・症状別食事療法）				
13	健康づくりと食生活				
14	まとめ				
15	試験				

**講義方法**

配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

筆記テスト 100%

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

人体の構造と機能 栄養学

**予習復習のアドバイス**

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	薬理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野 梨恵	実務経験	病院、薬局勤務約20年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。薬物の副作用や有害事象についても学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物の基本事項について理解する。</li> <li>・対象疾患に対する薬物療法について理解する。</li> <li>・薬物の副作用と有害事象について理解する。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	なぜ薬理学を学ぶのか、リハビリテーションに活かす薬理学				
2	薬が疾患治療に使えるのはなぜか				
3	薬の歴史、受容体、薬の分類について学ぶ				
4	薬の概念と分類				
5	薬の作用に影響する因子（作用、副作用、有害反応）				
6	生体内での薬の働き（薬物血中濃度、ADME）				
7	薬の作用に影響する因子（薬の効きやすさ、加齢の影響、相互作用）				
8	薬の使い方（剤型、投与計画、リスクマネジメント、薬物依存）				
9	感染・炎症の制御と薬物療法				
10	神経疾患の薬物療法				
11	精神疾患の薬物療法				
12	循環器系疾患の薬物療法				
13	疼痛の制御と薬物療法				
14	注意すべき頻用される薬物（代謝性疾患治療薬・催眠薬）				
15	過去の国家試験問題演習、注意すべき疾患と薬物療法				

**講義方法**

座学です。

教科書と配布プリントを使用します。配布資料はファイリングして講義に持参してください。

**講義で使用する機器・教材**

機材…パソコン・スライド

**履修上の注意事項**

教科書を忘れると課題が解けないので、忘れた場合は教員室で相談してください。

**成績評価方法**

期末試験100点換算ですが、授業態度の悪い人は減点します。(最大20点)

**教科書・参考書**

リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編

リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理 宮越浩一 編

**予習復習のアドバイス**

生理学・解剖学などの基礎科目と、内科学をはじめとする疾患に関する基礎知識が基本となるので、国家試験勉強を兼ねて復習しておくことを勧めます。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	加齢・予防医学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	大沼 英子、千葉 一平	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	加齢に伴う心身の変化と老年症候群、老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。また、疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	①加齢に伴う心身の変化と老年症候群について理解する。 ②老年期障害の一般的疾患について説明できる。 ③予防の概念について理解する。 ④主な疾病の予防について説明できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	老化と加齢変化				
2	高齢者の疾患 概論				
3	高齢者の疾患①				
4	高齢者の疾患②（0.5コマ）				
5	衛生・公衆衛生学序論・保健統計				
6	疫学・感度・特異度				
7	疾病予防と健康管理概論				
8	代表的な疾患の予防				

**講義方法**

ホワイトボード、パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、P C、スクリーン、配布プリント、適宜Ipadを使用する。

**履修上の注意事項**

予習として各講義前に該当する内容を参考書で読むようにしてほしい。

また、講義内容に関して内容の補足のために復習を心がけてほしい。

**成績評価方法**

試験および平常点（出席、小テスト、レポート等）で総合的に評価を行う。

大沼 50点、千葉 50点 で評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

なるほどなっとく病理学

「シンプル衛生公衆衛生学」2026 南江堂

**予習復習のアドバイス**

配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	小宮山 与一・日下 優	実務経験	理学療法士として病院、施設、クリニックで臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床医学と理学療法の関係性を理解し、それぞれの知識を定着させる。 基礎科目、臨床医学、理学療法の関係性を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	各疾患と理学療法の関係性を理解し、まとめ、発表できる。 基礎科目、臨床医学、理学療法の知識を定着させ、関連付けて説明することができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション				
2	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
3	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
4	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
5	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
6	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
7	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
8	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
9	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
10	各疾患と理学療法の調べ学習・発表				
11	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
12	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
13	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
14	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
15	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
16	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
17	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
18	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
19	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
20	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
21	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
22	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
23	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
24	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
25	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				
26	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）				

27	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）
28	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）
29	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）
30	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得（問題演習）
<b>講義方法</b> グループワーク、発表、調べ学習、問題演習など。	
<b>講義で使用する機器・教材</b> iPad、プロジェクター	
<b>履修上の注意事項</b> 文献を用いて調べ学習をすること。	
<b>成績評価方法</b> 発表、小テスト、期末試験 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b> 改訂第3版 基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編 南江堂 解剖学・生理学・運動学の教科書、疾患に応じた教科書	
<b>予習復習のアドバイス</b> 主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めていくこと。 まずは解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が必須になります。繰り返し繰り返し学習し、知識を定着させましょう。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科A	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅲ（通年）	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	小宮山 与一・日下 優	実務経験	理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種疾患に対する基本的な理学療法評価について理解し、その検査法および評価法を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
	代表的な整形外科テストを説明し、実施できる。 歩行分析における観察のポイントを説明できる。 各種疾患に対する理学療法評価計画を立案し、実施できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	理学療法評価	【総論】	評価の選定と評価計画の立案	：小宮山	
2	理学療法評価	【各論】	整形外科疾患に対する理学療法評価計画の立案	：小宮山	
3	理学療法評価	【各論】	整形外科疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習①）	：小宮山	
4	理学療法評価	【各論】	整形外科疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習②）	：小宮山	
5	理学療法評価	【各論】	整形外科疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習③）	：小宮山	
6	理学療法評価	【各論】	整形外科疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習④）	：小宮山	
7	理学療法評価	【各論】	中枢神経疾患に対する理学療法評価計画の立案	：日下	
8	理学療法評価	【各論】	中枢神経疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習①）	：日下	
9	理学療法評価	【各論】	中枢神経疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習②）	：日下	
10	理学療法評価	【各論】	中枢神経疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習③）	：日下	
11	理学療法評価	【各論】	中枢神経疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習④）	：日下	
12	理学療法評価	【各論】	神経筋疾患に対する理学療法評価計画の立案	：日下	
13	理学療法評価	【各論】	神経筋疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習①）	：日下	
14	理学療法評価	【各論】	神経筋疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習②）	：日下	
15	理学療法評価	【各論】	神経筋疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習③）	：日下	
16	理学療法評価	【各論】	神経筋疾患に対する理学療法評価の実施（実技演習④）	：日下	
17	整形外科テスト（上肢①）：籠倉				
18	整形外科テスト（上肢②）：籠倉				
19	整形外科テスト（下肢①）：小宮山				
20	整形外科テスト（下肢②）：小宮山				
21	動作分析 総論①：小宮山				
22	動作分析 総論②：小宮山				
23	動作分析 各論（立ち上がり/着座分析 演習①）：小宮山				
24	動作分析 各論（立ち上がり/着座分析 演習②）：小宮山				
25	動作分析 各論（立ち上がり/着座分析 演習③）：小宮山				
26	動作分析 各論（立ち上がり/着座分析 演習④）：小宮山				
27	動作分析 各論（歩行分析 演習①）：小宮山				
28	動作分析 各論（歩行分析 演習②）：小宮山				

29	動作分析 各論（歩行分析 演習③）：小宮山
30	動作分析 各論（歩行分析 演習④）：小宮山
<b>講義方法</b> 実技演習課題が中心の講義	
<b>講義で使用する機器・教材</b> スライド・配布資料	
<b>履修上の注意事項</b> 実技演習課題が中心の講義のため、実技演習が行える服用で参加すること。	
<b>成績評価方法</b> 実技試験100% 提出課題の不備（遅れ・未提出）は減点対象とする。 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b> ・「理学療法評価学」 第6版補訂版 金原出版株式会社 ・「そのとき理学療法士はこう考える」 医学書院	
<b>予習復習のアドバイス</b> ・1年次に履修した理学療法評価学Ⅰ/理学療法評価学Ⅱの復習をして参加してください。 ・課題提出をを課す場合があります。提出に不備がある場合は総合評定から減点しますので注意してください。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法画像評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	小宮山 与一・佐藤 房郎	実務経験	理学療法士として病院、施設で臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法の実施に関係する画像評価について学修する。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	臨床で活用されている医用画像撮影装置の原理と診かたについて理解するとともに、理学療法への役立て方を習得する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	各種モダリティの原理とその診かた				
2	脳画像の理解：脳の構造と画像とのマッチング				
3	脳画像のリハビリテーションへの応用：損傷エリアから病態を予測する				
4	超音波画像診断装置の理解				
5	超音波画像診断装置のリハビリテーションへの応用				
6	超音波画像診断装置トピックス				
7	画像評価に基づく疾患別ケーススタディ				
8	画像に関連する国家試験問題の理解				

**講義方法**

プリント及びスライドでの講義。適宜課題を提示します。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

基礎的な解剖学・運動学の知識を活用するため復習して授業に参加すること。

超音波画像診断装置を活用する講義の際には、肌を露出できる服装(短パン)で参加すること。

**成績評価方法**

期末試験100%

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

PT・OTのための画像のみかた 金原出版株式会社 監修 山下敏彦

**予習復習のアドバイス**

各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。

他科目での理解・復習が必要になりますので事前に確認しておくこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価・臨床推論	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	1
講師名	小宮山 与一・日下 優	実務経験	理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。				
	<b>到達目標</b>				
臨床推論を基に一連の理学療法プロセスを検討することが出来る。					
回数	講義内容				
1	症例報告会 オリエンテーション①				
2	クリニカルリーズニング（臨床推論）				
3	情報収集【演習①】				
4	統合と解釈【演習①】				
5	問題点整理【演習①】				
6	目標設定【演習①】				
7	治療プログラム立案【演習①】				
8	症例報告会①-1（情報収集/理学療法評価/統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
9	症例報告会①-2（情報収集/理学療法評価/統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
10	症例報告会①-3（情報収集/理学療法評価/統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
11	症例報告会①-4（情報収集/理学療法評価/統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
12	症例報告会 オリエンテーション【演習②】				
13	クリニカルリーズニング（臨床推論）【演習②】				
14	情報収集【演習②】				
15	統合と解釈について【演習②】				
16	問題点整理【演習②】				
17	目標設定【演習②】				
18	治療プログラム立案【演習②】				
19	症例報告会②-1（統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
20	症例報告会②-2（統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				
21	症例報告会②-3（統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）				

22	症例報告会②-4（統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）
23	症例報告会②-5（統合と解釈/問題点/目標設定/治療プログラム立案）
<b>講義方法</b>	
講義形式 グループワーク 発表	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン	
<b>履修上の注意事項</b>	
・グループワーク/発表が中心となります。積極的なディスカッションへの参加を行ってください。	
<b>成績評価方法</b>	
発表100点(症例報告①50点、症例報告②50点) 提出課題の不備（減点対象とする） S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b>	
理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版株式会社	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めしていくこと。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	井澤 真一	実務経験	介護老人保健施設にて5年の臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b> 運動療法Ⅰで習得した、基礎的知識と技術をを基に、各種障害に対する運動療法についての知識を深め、習得する。				
	<b>到達目標</b> 各種障害に対する運動療法の理論を理解し、実践できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	基本的な運動療法（運動療法に関する基礎知識・技術の確認）				
2	基本的な運動療法（運動療法に関する基礎知識・技術の確認）				
3	協調性運動障害に対する運動療法				
4	協調性運動障害に対する運動療法				
5	バランス障害に対する運動療法				
6	バランス障害に対する運動療法				
7	基本動作介助法と動作障害に対する運動療法				
8	基本動作介助法と動作障害に対する運動療法				
9	車椅子駆動練習と平行棒内での基本的な運動療法				
10	車椅子駆動練習と平行棒内での基本的な運動療法				
11	スポーツにおけるパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際①				
12	スポーツにおけるパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際①				
13	スポーツにおけるパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際②				
14	スポーツにおけるパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際②				
15	その他の運動療法				

**講義方法**

教科書、配布資料を使った講義、実技、グループワーク、課題

**講義で使用する機器・教材**

iPad・教科書

**履修上の注意事項**

評定は出席状況、授業態度も含まれます。

また、レポート課題で評定をしますので、提出物の未提出、遅れは大きく減点します。

実技を行うので、実技にふさわしい身なりと動きやすい服装で参加すること。

**成績評価方法**

出席状況、授業態度、レポート課題で総合して判定する。

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

CrossLink 理学療法学テキスト 運動療法学

**予習復習のアドバイス**

授業でわからないときは、教員に質問してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	物理療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 美加	実務経験	医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種物理療法（温熱療法除く）の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①物理療法（温熱療法除く）の種類を説明できる。 ②物理療法（温熱療法除く）の適応、禁忌、実施方法について説明できる。 ③物理療法（温熱療法除く）を実際に使用する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	光線療法				
2	寒冷療法（1）～寒冷の生理的反応				
3	寒冷療法（2）～各論				
4	水治療法（1）～水の特性				
5	水治療法（2）～各論				
6	電気刺激療法（1）～電気的特性				
7	電気刺激療法（2）～電気刺激療法概論				
8	電気刺激療法（3）～電気刺激療法各論①				
9	電気刺激療法（4）～電気刺激療法各論②				
10	牽引療法				
11	マッサージ療法				
12	演習（1）				
13	演習（2）				
14	演習（3）				
15	まとめ				

**講義方法**

講義、実技

**講義で使用する機器・教材**

その都度、係を通じて連絡します。

**履修上の注意事項**

演習を行う際は、肌を露出するため、Tシャツやハーフパンツで授業に参加してください。

**成績評価方法**

モノグサアプリの実施状況（60）、筆記試験（20）、課題（20）

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

15レクチャー理学療法テキスト 物理療法学・実習

**予習復習のアドバイス**

教科書にて予習復習を行い、理解を深めてください。内容の記憶にはモノグサアプリを使用してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	義肢・装具学	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	佐藤 房郎、五十嵐 守、片田 昌子	実務経験	理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法における義肢の必要性を理解する。義肢の構造を理解しながら対象疾患や障害に適した義肢を選択出来るようになる。必要な身体機能について再確認できる。				
	理学療法における装具の必要性を理解する。装具の構造を理解しながら対象疾患や障害に適した装具を選択できるようになる。必要な身体機能について再確認できる。				
	<b>到達目標</b>				
<p>【義肢】①義肢の構造を理解する。②理学療法との関わりを疾患との関連を考慮しながら体得する。③実習を通し、他職種との関わりを確認できる。</p> <p>【装具】①装具の意義と機能を理解する②装具の適応となる疾患や障害を学び、構造と機能を理解する③疾患や障害に対する装具の適応と適合判定能力を養う。</p>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	義肢総論（五十嵐）				
2	切断総論（五十嵐）				
3	切断各論（五十嵐）				
4	義足1：足継手、下腿義足ソケット（五十嵐）				
5	義足2：股・膝・サイム・足部義足（五十嵐）				
6	義足3：膝接手・大腿義足ソケット（五十嵐）				
7	義手（五十嵐）				
8	実習体験1（五十嵐）				
9	実習体験2（五十嵐）				
10	切断患者の疫学と病態：切断の要因別の病態を理解する。（佐藤）				
11	切断の評価：切断患者の理学療法評価を理解する。（佐藤）				
12	リスク管理・断端管理：断端成熟と全般的なリスク管理を習得する。（佐藤）				
13	運動療法とADL指導：義足歩行獲得に向けた具体的介入を学ぶ。（佐藤）				
14	義足アライメント：義足のアライメント設定の特徴を理解する。（佐藤）				
15	異常歩行と対処法：異常歩行の要因とアライメントとの関係を学ぶ。（佐藤）				
16	装具学 総論				
17	下肢装具① 基本的な構造と種類、チェックアウト				
18	下肢装具② 基本的な構造と種類、チェックアウト				
19	靴型装具 基本的な構造と種類				
20	体幹装具 基本的な構造と種類				
21	上肢装具① 基本的な構造と種類				
22	上肢装具② 基本的な構造と種類				
23	装具と疾患 脳血管疾患関連① 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期				

24	装具と疾患	脳血管疾患関連②	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
25	装具と疾患	運動器疾患関連①	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
26	装具と疾患	運動器疾患関連②	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
27	装具と疾患	神経筋疾患関連	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
28	装具と疾患	脊髄損傷関連	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
29	装具と疾患	小児疾患関連	意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
30	装具まとめ		
<b>講義方法</b>			
講義および実技			
<b>講義で使用する機器・教材</b>			
PC、プロジェクター、各種義肢、弾性包帯、装具			
<b>履修上の注意事項</b>			
必ず教科書を持参すること。予習復習をして授業に臨んでください。 実習では、動きやすい服装と上下肢を露出できるような準備で臨むこと。（スカート不可） 遅刻欠席は厳しく評価します。			
<b>成績評価方法</b>			
筆記試験（五十嵐60点、佐藤40点） S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満			
<b>教科書・参考書</b>			
細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版、南江堂、2018			
<b>予習復習のアドバイス</b>			
要点の確認を習慣化する。 教科書を読むこと。 授業中、教科書や資料に印をつけた部分は確実に覚えてください。（片田）			

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	前期	学 年	2年
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動技術論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	井澤 真一	実務経験	介護老人保健施設にて5年の臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	日常生活活動（以下、ADL）の概念を理解し、自立支援に向けADL評価方法、支援技術を身につける。 また、各疾患や障害におけるADL練習や指導の考え方を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	①ADLの定義や概念について理解する。 ②ADL評価方法、基本動作への指導方法や環境整備等を理解する。 ③各疾患の病態や対象者の変化に応じたADL練習や指導方法を理解する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	日常生活活動の概念				
2	日常生活活動とQOL、ICFとの関連性				
3	日常生活活動評価の目的と意義				
4	代表的な評価方法①BI				
5	体系的な評価方法②FIM				
6	基本動作①				
7	基本動作②				
8	杖・車椅子				
9	疾患・障害におけるADL 脳血管障害①				
10	疾患・障害におけるADL 脳血管障害②				
11	疾患・障害におけるADL 脊髄損傷①				
12	疾患・障害におけるADL 脊髄損傷②				
13	疾患・障害におけるADL 関節リウマチ				
14	疾患・障害におけるADL 関節障害				
15	疾患・障害におけるADL その他				

**講義方法**

教科書、配布資料を使った講義、実技、グループワーク、課題

**講義で使用する機器・教材**

iPad・教科書

**履修上の注意事項**

試験とレポート課題で評定する。復習をしっかりと行うように。

また、レポート課題の未提出、遅れは大きく減点する。

実技を行うので、実技にふさわしい身なりと動きやすい服装で参加すること。

**成績評価方法**

試験とレポート課題で総合して判定する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動テキスト

**予習復習のアドバイス**

授業でわからないときは、教員に質問してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	38
		単位時間数	75	単位数	5
講師名	小宮山 与一・籠倉 暁	実務経験	理学療法士（運動器関連施設）		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	骨運動器障害の概要を知り、それらの理学療法を総合的に学習する。運動器障害の理学療法評価について学ぶとともに、理学療法評価に基づいた運動療法を中心とした治療について理解を深める。				
	<b>到達目標</b>				
	運動器障害に対する機能障害の系統的評価手法・運動療法を理解する。				
回数	講義内容				
1	変形性股関節症, 人工股関節置換術 (①知識の整理)			【小宮山】	
2	変形性股関節症, 人工股関節置換術 (②リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
3	変形性膝関節症, 人工膝関節置換術 (①知識の整理)			【小宮山】	
4	変形性膝関節症, 人工膝関節置換術 (②リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
5	橈骨遠位端骨折 (①知識の整理)			【小宮山】	
6	橈骨遠位端骨折 (②リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
7	脛骨天蓋, 足関節果部骨折 (①知識の整理)			【小宮山】	
8	脛骨天蓋, 足関節果部骨折 (②リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
9	上腕骨近位部骨折 (知識の整理)			【籠倉】	
10	上腕骨近位部骨折 (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
11	大腿骨近位部骨折 (知識の整理)			【籠倉】	
12	大腿骨近位部骨折 (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
13	脊椎圧迫骨折 (知識の整理)			【籠倉】	
14	脊椎圧迫骨折 (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
15	頸髄症 (知識の整理)			【籠倉】	
16	頸髄症 (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
17	腰椎椎間板ヘルニア (知識の整理)			【籠倉】	
18	腰椎椎間板ヘルニア (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
19	脊柱管狭窄症 (知識の整理)			【籠倉】	
20	脊柱管狭窄症 (リハビリテーションプログラム)			【籠倉】	
21	肩関節疾患 (知識の整理①)			【籠倉】	
22	肩関節疾患 (知識の整理②)			【籠倉】	
23	肩関節疾患 (リハビリテーションプログラム①)			【籠倉】	
24	肩関節疾患 (リハビリテーションプログラム②)			【籠倉】	
25	前十字靭帯損傷, 再建術 (知識の整理)			【小宮山】	
26	前十字靭帯損傷, 再建術 (リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
27	半月板損傷, 切除・修復術 (知識の整理)			【小宮山】	
28	半月板損傷, 切除・修復術 (リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
29	関節リウマチ (知識の整理・リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
30	上肢スポーツ障害 (知識の整理・リハビリテーションプログラム)			【小宮山】	
31	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例1〉概要説明				
32	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例1〉グループワーク1				
33	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例1〉グループワーク2				
34	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例1〉実演・発表				

35	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例2〉概要説明
36	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例2〉グループワーク1
37	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例2〉グループワーク2
38	整形外科疾患に対する理学療法評価・治療の実践演習〈症例2〉実演・発表
<b>講義方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学</li> <li>・座学実技</li> <li>・演習課題 グループワーク</li> </ul>	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクター</li> </ul>	
<b>履修上の注意事項</b>	
演習の際には、必ず指定された服装（主にケーシー）着用して参加すること。	
<b>成績評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験100点(小宮山50点・籠倉50点)</li> </ul> S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b>	
ビジュアル実践リハ 「整形外科リハビリテーション」第二版 羊土社 標準整形外科学	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
疾患に関連する解剖学・生理学・運動学の復習を事前に行い参加すること。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	井澤真一、日下優、伊藤光、片山望	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	神経筋疾患の病態と理学療法との関わりを理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	①神経機能の基礎について復習し、各種症状を呈するメカニズムが理解できる。 ②対象となる疾患の症状、医学的管理、及び予後を理解し、時期や重症度に応じたりハビリテーション計画を考えることができる。 ③対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる。				
回数	講義内容				
1	脊髄損傷（伊藤）				
2	脊髄損傷（伊藤）				
3	脊髄損傷（伊藤）				
4	脊髄損傷（伊藤）				
5	脊髄損傷（伊藤）				
6	脊髄損傷（伊藤）				
7	脊髄損傷（伊藤）				
8	脊髄損傷（伊藤）				
9	脊髄損傷（伊藤）				
10	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）（日下）				
11	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）（日下）				
12	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）（日下）				
13	重症筋無力症・多発性筋炎（日下）				
14	重症筋無力症・多発性筋炎（日下）				
15	重症筋無力症・多発性筋炎（日下）				
16	パーキンソン病（井澤）				
17	パーキンソン病（井澤）				
18	パーキンソン病（井澤）				
19	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）				
20	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）				
21	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）				
22	多発性硬化症（片山）				
23	多発性硬化症（片山）				
24	筋萎縮性側索硬化症（片山）				
25	筋萎縮性側索硬化症（片山）				

26	筋ジストロフィー（片山）
27	筋ジストロフィー（片山）
28	筋ジストロフィー（片山）
29	筋ジストロフィー（片山）
30	筋ジストロフィー（片山）
<b>講義方法</b>	
講義及びグループ学習、実技	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
プロジェクター使用、教科書、配布PDF授業資料	
<b>履修上の注意事項</b>	
特になし	
<b>成績評価方法</b>	
筆記テスト（配点：伊藤30点・日下20点・井澤20点・片山30点） S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b>	
PT・OTビジュアルテキスト神経障害理学療法学 第2版（羊土社）	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発生機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良い。 神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	37.5
		単位時間数	75	単位数	5
講師名	佐藤 房郎、籠倉 暁、左右田 博	実務経験	佐藤：リハ専門病院、大学病院等での臨床歴40年、籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に9年、通所介護施設に2年理学療法士として勤務。 左右田：医療機関に15年、理学療法士として勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	・脳血管疾患などの中枢神経疾患の病態及び脳血管障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶ。				
	・脳血管障害に対する基本的な手技について、その理論と実際の方法について学ぶ。また、脳血管疾患の代表的な理学療法について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
①学生が脳血管疾患の病態を理解し、学生同士で理学療法評価の実践ができる。					
②個々の脳血管障害の理学療法について簡単に説明でき、わずかな助言の元を実施できる。					
回数	講義内容				
1	神経障害理学療法総論（佐藤）				
2	脳の機能と構造（運動）（佐藤）				
3	脳の機能と構造（感覚、脳血管の走行と灌流領域）（佐藤）				
4	脳血管障害1（病型とその特徴）（佐藤）				
5	脳血管障害2（病型とその特徴）（佐藤）				
6	その他の脳損傷疾患（頭部外傷、脳腫瘍、低酸素脳症）（佐藤）				
7	中枢性運動障害の病態（佐藤）				
8	脳血管疾患の理学療法評価（意識障害、感覚障害の評価方法を理解し、実践する）（左右田）				
9	脳血管疾患の理学療法評価（包括的評価の方法を理解し、実践する）（左右田）				
10	脳血管疾患の理学療法評価（運動麻痺（BRS、バレー徴候、共同運動、連合反応の方法を理解し、実践する）（左右田）				
11	脳血管疾患の理学療法評価（運動失調の評価方法（SARA）を理解し、実践する）（左右田）				
12	脳血管疾患の理学療法評価（筋緊張、病的反射の評価方法を理解し、実践する）（左右田）				
13	脳血管疾患の理学療法評価（高次脳機能障害、半側空間無視の評価方法を理解し、実践する）（左右田）				
14	脳血管疾患の理学療法評価（失語、失認、失行の病態や評価方法についてまとめ、理解する）（左右田）				
15	脳卒中片麻痺患者の寝返り、起き上がり動作の分析①（籠倉）				
16	脳卒中片麻痺患者の寝返り、起き上がり動作の分析②（籠倉）				
17	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の分析①（籠倉）				
18	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の分析②（籠倉）				
19	脳卒中片麻痺患者の歩行分析①（籠倉）				
20	脳卒中片麻痺患者の歩行分析②（籠倉）				
21	脳卒中片麻痺患者の動作障害に関するケーススタディ（籠倉）				
22	脳卒中片麻痺患者の動作障害に関するケーススタディ（籠倉）				
23	脳卒中リハビリテーションの概要、急性期リハのリスク管理（左右田）				
24	運動障害、感覚障害の理学療法（左右田）				
25	小脳症状に対する理学療法（左右田）				
26	高次脳機能に対する理学療法（左右田）				
27	短下肢装具を使用した理学療法（左右田）				
28	長下肢装具を使用した理学療法（左右田）				
29	前期講義の復習（片麻痺患者の病態解釈）（佐藤）				

30	ベッドと車いすの移乗練習（佐藤）
31	座位姿勢の評価と立ち上がりの誘導（佐藤）
32	立位姿勢の評価と姿勢調整から歩行誘導への展開（佐藤）
33	床からの立ち上がり、階段昇降の介助と誘導（佐藤）
34	姿勢評価と基本動作の誘導のまとめ（佐藤）
35	病棟内での理学療法展開（佐藤）
36	リスクマネジメントと合併症対策（佐藤）
37	生活期の中枢神経系理学療法（佐藤）
38	再発予防（佐藤）
<b>講義方法</b>	
講義、実技	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
PC、プロジェクター、実習では車いす準備、教科書、測定器具	
<b>履修上の注意事項</b>	
必ず教科書を持参すること。 実習は、KC着替えて臨むこと。 遅刻欠席は厳しく評価します。	
<b>成績評価方法</b>	
筆記試験 前期1～7（佐藤）について中間テストを5/7に実施。 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b>	
神経障害理学療法学Ⅰ 病気が見える7 脳・神経	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
わからないことは、まずは教科書を調べ解決する習慣をつけましょう。 それでもわからない場合に教員に質問するようにしてみましょう。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	石島孝樹、三浦秀幸、佐藤真侑、左右田博	実務経験	石島：【修士：障害科学】主に病院等で20年の臨床経験がある。左右田：医療機関に15年、理学療法士として勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	代謝障害（糖尿病・腎不全）における病態と理学療法の概要を知り、それらの理学療法評価及び治療について理解する。				
	心大血管疾患リハビリテーションの基本知識を身につける。				
	呼吸器疾患リハビリテーションの基本知識を身につける。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	リスク管理を行いながら安全に評価、治療を行うための知識を身につける。				
	代謝障害を理解する上で必要な組織・器官の構造と機能が説明できる。 糖尿病、腎不全に関する疾患特性について説明できる。				
回数	講義内容				
1	呼吸器系の解剖（左右田）				
2	呼吸の生理（左右田）				
3	呼吸不全の病態、理学療法の対象となる代表的な疾患（左右田）				
4	医学的検査、医師による治療（左右田）				
5	理学療法評価（左右田）				
6	呼吸リハビリ総論 呼吸器障害に対する理学療法 運動療法（左右田）				
7	慢性閉塞性肺疾患（左右田）				
8	周術期（左右田）				
9	酸素療法、人工呼吸療法、呼吸理学療法（左右田）				
10	呼吸介助（左右田）				
11	心臓リハビリテーション概論・循環器の解剖生理運動学（三浦）				
12	血液検査データの見方（三浦）				
13	モニター心電図①（三浦）				
14	モニター心電図②・12誘導心電図（三浦）				
15	循環器疾患の病態生理と治療（三浦）				
16	循環器疾患と理学療法的評価（循環アセスメント）（三浦）				
17	循環器疾患と理学療法的評価（身体活動能力、ADL、QOLなど）（三浦）				
18	循環器疾患と理学療法的治療（離床のプロセス、守りの離床、運動処方、疾患管理プログラム）（三浦）				
19	循環器疾患と理学療法的治療（心不全、心臓血管術後）（三浦）				
20	循環器疾患と理学療法的治療（虚血性心疾患）・まとめ（三浦）				
21	運動負荷試験について①（佐藤）				
22	運動負荷試験について②（佐藤）				
23	代謝機能の仕組み、代謝障害の特性について理解する（石島）				

24	栄養とエネルギー代謝、身体活動時の代謝応答（石島）
25	糖尿病Ⅰ 概論、機能解剖、病態理解、検査値の理解（石島）
26	糖尿病Ⅱ 理学療法評価と治療、運動時の血糖変化の理解（石島）
27	糖尿病Ⅲ ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介（石島）
28	腎臓病Ⅰ 概論、機能解剖、病態理解、人工透析の理解（石島）
29	腎臓病Ⅱ 理学療法評価と治療（石島）
30	腎臓病Ⅲ ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介（石島）
<b>講義方法</b>	
座学、グループワーク、発表、実技	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
iPad、プロジェクター、スクリーン、KC	
<b>履修上の注意事項</b>	
授業毎に確認テストを実施する。（石島、左右田）	
<b>成績評価方法</b>	
発表、小テスト、実技、期末試験	
S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満	
<b>教科書・参考書</b>	
・理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 （メジカルビュー社）	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
主体的に行動し、随時教員に質問してください。	
欠席した場合、各回の配布資料をみてください。	
授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。	

## 講義要項（シラバス）シート

<b>年度</b>	2026年度	<b>時期</b>	通年	<b>学年</b>	2
<b>学科</b>	理学療法科	<b>講義時間</b>	時間割参照参照		
<b>科目名</b>	高齢期理学療法	<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	7.5回
		<b>単位時間数</b>	15	<b>単位数</b>	1
<b>講師名</b>	井澤 真一	<b>実務経験</b>	介護老人保健施設にて5年の臨床経験		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	高齢期の理学療法における理学療法の概要を知り、それらの理学療法について理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	高齢期の理学療法について、理学療法評価、理学療法治療を実践できる。				
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>				
1	高齢者の基礎的理解				
2	フレイル・サルコペニア①				
3	フレイル・サルコペニア②				
4	認知機能障害				
5	転倒				
6	低栄養				
7	尿失禁				
8	摂食嚥下障害				

**講義方法**

配布資料を使った講義、実技、グループワーク、課題

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

試験で評定する。復習をしっかり行うように。

実技を行うので、実技にふさわしい身なりと動きやすい服装で参加すること。

**成績評価方法**

試験とレポート課題で総合して判定する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書****予習復習のアドバイス**

授業でわからないときは、教員に質問してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動発達障害理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 悟子、五十嵐 守	実務経験	理学療法士（齋藤）：小児領域で勤務 理学療法士（五十嵐）：小児領域で年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	正常運動発達を学び、小児の理学療法、（評価・治療）の考え方を学ぶ。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	小児の理学療法を知る。正常運動発達を踏まえ、小児の障害の特性を理解し、発達を考慮した理学療法（評価・治療）を想起できる。脳性麻痺の病態像-臨床像を説明できる。脳性麻痺の症状-障害像-全体像を説明できる。脳性麻痺児の運動発達評価結果を説明できる。タイプ別の異常姿勢反射、姿勢-運動発達障害の特徴が説明できる。その他疾患の医学的治療、理学療法を説明できる。				
回数	講義内容				
1	運動発達障害の療育体系と療育指導および支援教育。胎児期・新生児期から歩行獲得までの運動発達。運動発達の理論。小児理学療法のエビデンス。ガイドラインに基づいた小児理学療法の方針の立て方				
2	発達・運動発達の評価。姿勢反射の発達				
3	発達・運動発達の評価。姿勢反射の発達				
4	脳性麻痺について				
5	子どもの整形外科疾患、子どもの遺伝性疾患				
6	知的障害児およびその他の発達障害児				
7	重症心身障害児、子どもの呼吸障害				
8	発達障害の理学療法（総論）：1回から8回までの授業のまとめを行う				
9	痙直型脳性麻痺(四肢麻痺・両麻痺)の理学療法：痙直型脳性麻痺児への治療・支援の実際について学び理解する				
10	痙直型片麻痺・アトローゼ型の理学療法：痙直型片麻痺児およびアトローゼ型の脳性麻痺児への治療・支援の実際について学び理解する				
11	整形外科疾患の理学療法：ペルテス病はじめ整形外科疾患の障害を持つ児への治療・支援について学び理解する				
12	DMD、知的障害児の理学療法：デュシャンヌ型筋ジストロフィーおよび知的障害を持つ児への治療・支援について学び理解する				
13	脳性麻痺の理学療法治療その1：脳性麻痺児への治療を想定した手技のデモをみて理解し、その後学生同士で体験する				
14	脳性麻痺の理学療法治療その2：脳性麻痺児への治療を想定した手技のデモをみて理解し、その後学生同士で体験する				
15	医療的ケア児・重度心身障害児の理学療法：医療的ケア児・重度心身障害児の概要について学ぶとともに、その中心的治療となる呼吸療法を体験する				

**講義方法**

座学、実技 (1～7回 齋藤、8～15回 五十嵐)

**講義で使用する機器・教材**

座学中でもデモンストレーションを入れることがあるので動きやすい服装で来ること。

教科書、パワーポイント資料

**履修上の注意事項****成績評価方法**

期末試験（試験範囲：1～12回目まで） 齋藤50点、五十嵐50点

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

小児理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂

**予習復習のアドバイス**

1. 予習として1時間程度教科書を読んでおくこと。復習として1時間程度ノートをまとめること。
2. 自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみること。わからないことは即解決すること。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	前期	学年	2年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域理学療法学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	川口 晴美	実務経験	28年:医療機関5年、介護機関23年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	地域を基盤として行われる理学療法において理学療法士の果たすべき役割と必要な知識を習得する。 また、高齢者や障害者の生活で抱える課題への支援方法を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	①地域での理学療法士の役割を理解する。 ②関連諸制度、在宅での理学療法を理解する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	地域リハビリテーションの概念				
2	地域理学療法について				
3	地域理学療法と社会情勢				
4	地域理学療法と制度				
5	地域理学療法の対象と支援方法				
6	施設系における理学療法士の役割				
7	通所系における理学療法士の役割				
8	地域理学療法の支援方法：起居動作				
9	地域理学療法の支援方法：移乗・移動動作				
10	地域理学療法の支援方法：ADL				
11	地域理学療法の支援方法：社会参加				
12	地域理学療法の支援方法：介護予防				
13	地域理学療法の支援方法：環境的側面				
14	地域の仕組み				
15	世界の地域リハビリテーション（CBR）				

**講義方法**

講義、グループワーク、実技演習

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

グループワークでは積極的に参加すること。

**成績評価方法**

試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

理学療法テキスト：地域理学療法学

**予習復習のアドバイス**

病態について十分に学習すること。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	住環境整備・福祉用具活用論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	和地辰紀、巴 雅人、伊藤 清市	実務経験	一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション8年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	講義を通じて、各障害と生活環境の関わりを学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の基本理解と各職域との連携を理解する。</li> <li>・各疾患の特徴と住宅改修の基礎知識を習得する。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	生活環境の概念と論点 ①障害の受容や差別・偏見 ノーマライゼーションやバリアフリーの概念（巴先生）				
2	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状（1） ①障害者政策と運動、その時代の福祉用具 ②環境と障害、理学療法士の関わり（巴先生）				
3	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状（2） ③社会福祉制度、法的諸制度 ④障害者スポーツ概要（巴先生）				
4	居住環境の整備（1）（巴先生）				
5	居住環境の整備（2）（巴先生）				
6	居住環境の整備（3）（巴先生）				
7	居住環境の整備（4）（巴先生）				
8	地域における生活環境整備（1）（伊藤先生）				
9	地域における生活環境整備（2）（伊藤先生）				
10	地域における生活環境整備（3）（伊藤先生）				
11	地域における生活環境整備（4）（伊藤先生）				
12	PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具（1）（和地）				
13	PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具（2）（和地）				
14	事例検討（1）（和地）				
15	事例検討（2）（和地）				

**講義方法**

教科書、資料、パワーポイント等を使った講義やグループワーク

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

出席評価（課題・レポート提出）、学期末の筆記試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

別途、必要に応じて資料を配布します。

**予習復習のアドバイス**

グループワークや課題等の取り組みは事前準備をしっかりと行い積極的に仲間と取り組むこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	
		単位時間数	40	単位数	1
講師名	小宮山 与一、日下 優	実務経験	理学療法士として病院、施設、クリニックで臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<p>通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの見学を通し、対象者が抱える生活上の課題を理解することならびに地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解することを目標とする。</p> <p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人・医療人としてのマナーや規則を守ることが出来る。</li> <li>2. 見学・コミュニケーション場面において、対象者・指導者・関連職員の方々に不快を与えない対応が出来る。</li> <li>3. 対象者が生活を送る上での課題を整理し、理学療法士としての支援の在り方を考えることが出来る。</li> <li>4. 対象者に携わる関連職種 of 役割を知り、連携の在り方を考えることが出来る。</li> <li>5. 見学した内容を適切な表現でまとめ、発表することが出来る。</li> </ol>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションに関する実習 40時間				
2					
3					
4					
5					
6					
<b>講義方法</b>					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<b>成績評価方法</b>					
<p>実習に関する最終評定は、出席状況や参加態度などを総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。</p> <p>S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満</p>					
<b>教科書・参考書</b>					
<b>予習復習のアドバイス</b>					

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床実習Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	
		単位時間数	120	単位数	3
講師名	小宮山 与一、日下 優	実務経験	理学療法士として病院、施設、クリニックで臨床経験		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	1) 社会人・医療人としての適切な行動ができる。				
	2) 対象者が生活を送る上での課題を整理し、主訴・Needを把握することができる。				
	3) 対象者に携わる関連職種役割を知り、連携の在り方を考えることができる。				
	4) 対象者に必要な情報収集、検査・測定項目を列挙することができる。				
	5) 選択した検査・測定を正しく実施することができる。				
	6) 実施した検査・測定の結果を適切に記録することができる。				
	7) 実施した検査・測定の結果を解釈することができる。				
8) 臨床実習Ⅰで行った内容を適切な表現でまとめ、発表することができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	実習前評価 8時間				
2	本実習 104時間				
3	実習後評価 8時間				
4					
5					
6					
7					
8					
<b>講義方法</b>					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<b>成績評価方法</b>					
実習に関する最終評定は、出席状況や参加態度などを総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満					
<b>教科書・参考書</b>					
<b>予習復習のアドバイス</b>					

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	統計学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	岩淵 正則	実務経験			
講義目標	一般目標 統計学の基本的な考え方を理解し、実務に活用できる。				
	到達目標 国家試験の問題を解けるようになる。				
回数	講義内容				
1	データの種類と代表値				
2	度数分布表				
3	確率分布と正規分布				
4	相関係数と回帰直線				
5	推定について				
6	各種検定の種類と特徴（パラメトリック検定）				
7	各種検定の種類と特徴（パラメトリック検定）				
8	試験と解説				

**講義方法**

板書で解説をしていく。

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

試験の得点を重視する。

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

ていねいな保健統計学 羊土社

**予習復習のアドバイス**

数学Ⅰ・Aの内容（統計分野）を復習しておくこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	スポーツ学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	8	単位数	1
講師名	川口 鉄二	実務経験			
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人間の運動の発達を理解し、健康な運動生活に必要な方法論を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
	生涯スポーツの役割を理解し、心身ともに健康な生活が積極的に実践できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	スポーツ運動と日常運動におけるデジタル思考とアナログ思考の違い				
2	運動を伝えるために不可欠な認識とは できるとできないの違い				
3	人間の動きに対する二つの見方 生理学的反応とスポーツ反応				
4	運動技術の分析法と動感を用いた呈示法				
5	実技				
6	実技				
7	実技				
8	実技				

**講義方法**

対面によるプレゼンテーション

**講義で使用する機器・教材**

P C, タブレット, 携帯端末, プロジェクター

**履修上の注意事項**

毎回講義の内容と意見などをフォームにより提出

**成績評価方法**

テストと授業レポートによる。

S:90~100点、A:80~89点、B:70~79点、C:60~69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

コツとカンの運動学 大修館

**予習復習のアドバイス**

授業内容は自らの経験にあてはめながら理解する。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション論Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		総時間数	15	単位数	1
講師名	江崎 浩明、佐藤 美加	実務経験	江崎：産業・学校・医療領域にて相談業務約15年間。佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	臨床実習Ⅱや就職活動に向け、他職種と有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。				
	到達目標				
	①他職種と有効な関係を築くコミュニケーション能力を身に着ける。 ②理学療法実施に関連するコミュニケーション能力を身に着ける。				
回数	講義内容				
1	自分自身を知る				
2	配慮に関するコミュニケーション				
3	自分の心身の状態に気づく				
4	対人援助のコミュニケーション				
5	チームワークとコミュニケーション①(チームの一員として仕事を進める)				
6	チームワークとコミュニケーション②(建設的でさわやかに対話する)				
7	その人らしさを大切にするコミュニケーション①（視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション）				
8	その人らしさを大切にするコミュニケーション②（認知症の被援助者とのコミュニケーション）				

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

江崎50点（試験）、佐藤50点(課題)

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院）

参考書：ケア・コミュニケーション(ウィネット)

**予習復習のアドバイス**

教科書を読んで、日常生活で実践することを継続してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	3年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	薬理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	矢野梨恵	実務経験	病院、薬局勤務約20年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。薬物の副作用や有害事象についても学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物の基本事項について理解する。</li> <li>・対象疾患に対する薬物療法について理解する。</li> <li>・薬物の副作用と有害事象について理解する。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	なぜ薬理学を学ぶのか、リハビリテーションに活かす薬理学				
2	薬が疾患治療に使えるのはなぜか				
3	薬の歴史、受容体、薬の分類について学ぶ				
4	薬の概念と分類				
5	薬の作用に影響する因子（作用、副作用、有害反応）				
6	生体内での薬の働き（薬物血中濃度、ADME）				
7	薬の作用に影響する因子（薬の効きやすさ、加齢の影響、相互作用）				
8	薬の使い方（剤型、投与計画、リスクマネジメント、薬物依存）				
9	感染・炎症の制御と薬物療法				
10	神経疾患の薬物療法				
11	精神疾患の薬物療法				
12	循環器系疾患の薬物療法				
13	疼痛の制御と薬物療法				
14	注意すべき頻用される薬物（代謝性疾患治療薬・催眠薬）				
15	過去の国家試験問題演習、注意すべき疾患と薬物療法				

**講義方法**

座学です。

教科書と配布プリントを使用します。配布資料はファイリングして講義に持参してください。

**講義で使用する機器・教材**

機材…パソコン・スライド

**履修上の注意事項**

教科書を忘れると課題が解けないので、忘れた場合は教員室で相談してください。

**成績評価方法**

期末試験100点換算ですが、授業態度の悪い人は減点します。(最大20点)

**教科書・参考書**

リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編

リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理 宮越浩一 編

**予習復習のアドバイス**

生理学・解剖学などの基礎科目と、内科学をはじめとする疾患に関する基礎知識が基本となるので、国家試験勉強を兼ねて復習しておくことを勧めます。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	後期	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	画像診断学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	星原 正則、千葉 一幸、佐藤 房郎	実務経験	星原：診療放射線技師として一般病院での勤務経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b> 画像検査の種類、原理、方法、適応等について学修する。				
	<b>到達目標</b> 医学的情報における画像所見及び画像診断について説明できる。 （レントゲン・CT・MRI・超音波画像）				
回数	講義内容				
1	画像検査の種類、原理、方法、適応等				
2	画像検査の種類、原理、方法、適応等				
3	画像検査の種類、原理、方法、適応等				
4	各論～胸部画像（0.5コマ）				
5	各論～心電図				
6	各論～心電図				
7	各論～CVAの画像所見及び診断				
8	各論～CVAの画像所見及び診断				

**講義方法**

1～4はオンライン、5～対面で実施

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項****成績評価方法**

課題、レポート、出席状況により評価

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

特になし。

**予習復習のアドバイス**

疑問点は積極的に質問してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3年
学 科	理学療法学科	講義時間	時間割参照		
科目名	関連職種連携論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	川口 晴美	実務経験	28年:医療機関5年、介護機関23年		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	「チーム医療、チームケア」を実践するた、医療及び地域における他職種連携の在り方、多職種との意見調整について学び、臨床の場で活かせる。				
	<b>到達目標</b>				
	①多職種について理解する。 ②自身の立場を理解した上で自身の意見を伝えることができる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	関連職種連携とは				
2	医療福祉専門職に求められるもの				
3	情報共有の方法について				
4	協働と連携について				
5	関連職種連携の実践①				
6	関連職種連携の実践②				
7	関連職種連携の実践③				
8	テスト				

**講義方法**

講義とグループワーク

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

グループワークでは検討課題に積極的に取り組み参加してください。

**成績評価方法**

学期末試験にて評定します。

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

基本的には講義資料を用います。

**予習復習のアドバイス**

講義で分からないことがあれば積極的に担当教員に質問をしてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	3学年
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	研究法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山 与一	実務経験	理学療法士（運動器関連施設）		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	研究に必要な用語や知識を理解し、研究思考を身につける。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の必要性・重要性について説明できる。</li> <li>・研究に用いる用語を説明できる。</li> <li>・研究過程を説明できる。</li> <li>・理学療法関連の論文の内容を理解できる。</li> <li>・目的をもって複数の文献をまとめることができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	EBPTとガイドライン				
2	文献レビュー(概要説明)				
3	文献レビュー(レジュメ作成)1				
4	文献レビュー(レジュメ作成)2				
5	文献レビュー(レジュメ作成)3				
6	文献レビュー(レジュメ作成)4				
7	プレゼンテーション1				
8	プレゼンテーション2				
9	プレゼンテーション3				
10	プレゼンテーション4				
11	プレゼンテーション5				
12	プレゼンテーション6				
13	プレゼンテーション7				
14	研究法に関する国家試験問題の解答・解説				
15	研究法に関する国家試験問題の解答・解説				

**講義方法**

発表準備やプレゼンテーションを行います。

**講義で使用する機器・教材**

・I pad ・プロジェクター

**履修上の注意事項**

理学療法に関する文献を収集・集約し、レジュメを作成します。作成期日を守るように計画的に進めてください。

**成績評価方法**

発表内容・態度、取り組み状況を総合的に勘案し、評価する。

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

理学療法士協会策定「理学療法ガイドライン第1版・第2版」

**予習復習のアドバイス**

主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めていくこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法に関わる基礎科目、臨床医学を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	基礎科目、臨床医学の知識を定着させ、関連付けて説明することができる。				
回数	講義内容				
1	解剖学の復習①				
2	解剖学の復習②				
3	解剖学の復習③				
4	生理学の復習①				
5	生理学の復習②				
6	生理学の復習③				
7	運動学の復習①				
8	運動学の復習②				
9	運動学の復習③				
10	臨床医学の確認①				
11	臨床医学の確認②				
12	臨床医学の確認③				
13	臨床医学の確認④				
14	臨床医学の確認⑤				
15	臨床医学の確認⑥				

**講義方法**

講義、グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

国試の達人2026（運動解剖生理学編・臨床医学編）

1～2年生次に使用したすべての教科書

**履修上の注意事項**

各自が主体性をもって取り組むこと。

**成績評価方法**

筆記試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

1～2年生次に使用したすべての教科書

**予習復習のアドバイス**

まずは解剖学、生理学、運動学の基本的な知識が必須になります。

繰り返し繰り返し学習し、知識を定着させましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤 美加、渡邊 好孝、波多野陽子、 川上 真吾、吉崎 伸一	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。渡邊・榊・川上：医療機関で現在まで永年にわたり勤務。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本，臨床教育の基本について学ぶ。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	理学療法士として働くイメージが明確になり、そのためにどのような自己管理が必要かあげられるようになる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	理学療法部門管理① ～職場長の立場から（榊）				
2	理学療法部門管理②～職場長の立場から（榊）				
3	臨床教育の方法と生涯学習制度について～職場及び士会の卒後教育の紹介（川上）				
4	理学療法士として働くこと～ 理学療法士会長の立場から(渡邊)				
5	医療安全トレーニング①～「判断未実施」（佐藤）				
6	医療安全トレーニング② ～「説明不足」（佐藤）				
7	起業について（吉崎）				
8	起業について（吉崎）0.5コマ				

<b>講義方法</b> 講義、演習
<b>講義で使用する機器・教材</b>
<b>履修上の注意事項</b>
<b>成績評価方法</b> 提出物、出席状況 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満
<b>教科書・参考書</b> なし
<b>予習復習のアドバイス</b> 疑問点があれば担当教員に確認をしてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学VI	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床実習Ⅰの経験を活かし、代償動作やリスク管理を意識した検査・測定の実施の重要性を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	正確な検査・測定を実施することができる。 検査・測定時に適切なリスク管理ができる。				
回数	講義内容				
1	各検査・測定の実技練習①				
2	各検査・測定の実技練習②				
3	各検査・測定の実技練習③				
4	各検査・測定の実技練習④				
5	各検査・測定の実技練習⑤				
6	各検査・測定の実技練習⑥				
7	各検査・測定の実技練習⑦				
8	各検査・測定の実技練習⑧				

<b>講義方法</b> 実技
<b>講義で使用する機器・教材</b> 教科書・測定器具
<b>履修上の注意事項</b> 原則として半袖・ハーフパンツを着用すること。ピアス、イヤリング、ネックレス、ブレスレット、腕時計、指輪などの装飾品は外すこと。 髪が肩にかかる場合は黒か茶か紺のゴムで結びまとめる。前髪は目にかからないようにすること。 爪は短く切ること。（マニキュア、ネイルアート禁止）
<b>成績評価方法</b> 実技試験 S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満
<b>教科書・参考書</b> 1～2年次に使用した教科書・配布資料
<b>予習復習のアドバイス</b> 授業以外でも積極的に実技練習の機会を設けるよう心がけましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	症例に応じたプログラムの立案を学習する。 基本的な運動療法、リスク管理を再確認する。				
	<b>到達目標</b>				
	根拠のある理学療法プログラムを立案できる。 運動療法においてリスク管理を行いながら正確に実施できる。				
回数	講義内容				
1	症例検討①				
2	症例検討②				
3	症例検討③				
4	症例検討④				
5	症例検討⑤				
6	症例検討⑥				
7	症例検討⑦				
8	症例検討⑧				
9	各種運動療法の実技練習①				
10	各種運動療法の実技練習②				
11	各種運動療法の実技練習③				
12	各種運動療法の実技練習④				
13	各種運動療法の実技練習⑤				
14	各種運動療法の実技練習⑥				
15	各種運動療法の実技練習⑦				

**講義方法**

演習（グループワーク）、実技練習

**講義で使用する機器・教材**

適宜

**履修上の注意事項**

原則として半袖・ハーフパンツを着用すること。ピアス、イヤリング、ネックレス、ブレスレット、腕時計、指輪などの装飾品は外すこと。

髪が肩にかかる場合は黒か茶か紺のゴムで結びまとめる。前髪は目にかからないようにすること。

爪は短く切ること。（マニキュア、ネイルアート禁止）

**成績評価方法**

授業態度、実技試験

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

1～2年次に使用した教科書・配布資料

**予習復習のアドバイス**

実技練習は自主的に反復練習し、実践できるようにしましょう。

基本的な知識が必要です。特に運動学の知識はしっかり復習してから授業に臨みましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	骨関節障害の症例と国家試験問題の結び付けについて理解を深める。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が主体的に学習し、骨関節障害の疾患理解や国家試験問題に対応できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	病態の復習①				
2	病態の復習②				
3	疾患と理学療法の結び付け①				
4	疾患と理学療法の結び付け②				
5	疾患と理学療法の結び付け③				
6	疾患と理学療法の結び付け④				
7	疾患と理学療法の結び付け⑤				
8	疾患と理学療法の結び付け⑥				

**講義方法**

講義・グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

1～2年次に使用したすべての教科書

**履修上の注意事項**

計画を立て、自ら調べて知識の定着ができるように取り組んでください。

**成績評価方法**

期末試験

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

国試の達人（臨床医学編）、必修ポイント（基礎PT学・障害別PT治療学）

**予習復習のアドバイス**

骨関節障害の理学療法について、復習して授業に臨みましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	神経筋障害の症例と国家試験問題の結び付けについて理解を深める。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が主体的に学習し、神経筋障害の疾患理解や国家試験問題に対応できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	病態の復習①				
2	病態の復習②				
3	疾患と理学療法の結び付け①				
4	疾患と理学療法の結び付け②				
5	疾患と理学療法の結び付け③				
6	疾患と理学療法の結び付け④				
7	疾患と理学療法の結び付け⑤				
8	疾患と理学療法の結び付け⑥				

**講義方法**

講義・グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

1～2年次に使用したすべての教科書

**履修上の注意事項**

計画を立て、自ら調べて知識の定着ができるように取り組んでください。

**成績評価方法**

期末試験

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

国試の達人（臨床医学編）、必修ポイント（基礎PT学・障害別PT治療学）

**予習復習のアドバイス**

神経筋障害の理学療法について、復習して授業に臨みましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	後期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	高橋 玲子	実務経験	医療機関（病院）で7年6か月勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	脳血管障害の症例と国家試験問題の結び付けについて理解を深める。				
	<b>到達目標</b>				
	学生が主体的に学習し、脳血管障害の疾患理解や国家試験問題に対応できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	病態の復習①				
2	病態の復習②				
3	疾患と理学療法の結び付け①				
4	疾患と理学療法の結び付け②				
5	疾患と理学療法の結び付け③				
6	疾患と理学療法の結び付け④				
7	疾患と理学療法の結び付け⑤				
8	疾患と理学療法の結び付け⑥				

**講義方法**

講義・グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

1～2年次に使用したすべての教科書

**履修上の注意事項**

計画を立て、自ら調べて知識の定着ができるように取り組んでください。

**成績評価方法**

期末試験

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

国試の達人（臨床医学編）、必修ポイント（基礎PT学・障害別PT治療学）

**予習復習のアドバイス**

脳血管障害の理学療法について、復習して授業に臨みましょう。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅳ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	三浦秀幸、辻和子、山野英伯、小野寺裕志	実務経験	理学療法士		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	がん、緩和ケア、健康増進、介護予防の理学療法について理解を深める。 喀痰吸引について理解を深める。				
	<b>到達目標</b>				
	がん、緩和ケア、健康増進、介護予防の理学療法について理解し、説明ができる。 喀痰吸引をモデル人形に実施できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	介護保険制度の歴史				
2	介護予防と理学療法士				
3	転倒予防				
4	世代別の予防理学療法				
5	障害者の健康増進、小テスト				
6	がんの理学療法（概要）				
7	がんの理学療法（理学療法）				
8	がんの理学療法（リンパ浮腫講義）				
9	がんの理学療法（リンパ浮腫演習）				
10	がんの理学療法（症例検討）				
11	喀痰吸引				
12	喀痰吸引				
13	喀痰吸引				
14	喀痰吸引				
15	喀痰吸引				

**講義方法**

- ・ 対面講義、実技、グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

- ・ プロジェクター、スクリーン

**履修上の注意事項**

- ・ 三浦：最終授業で復習してから小テストを行います。
- ・ 辻：演習時は半袖ハーフパンツを着用すること。
- ・ 佐藤：ケーシーを着用し、爪を切り、髪をまとめておくこと。

**成績評価方法**

- ・ 三浦：出席回数、小テスト（最終授業内で実施）
- ・ 辻：期末試験
- ・ 佐藤：小テスト、提出物、授業態度

S:90～100点、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、D：60点未満

**教科書・参考書**

- ・ クロスリンク理学療法テキスト 内部障害理学療法学 メジカルビュー社

**予習復習のアドバイス**

- ・ 三浦：欠席した場合、各回の配布資料をみてください。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	各種理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	15	単位数	1
講師名	小宮山与一、佐藤美加、久保田凌、大友篤、三浦恵、三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）10年、障害支援施設10年、理学療法士として勤務。佐藤：医療機関（一般病院）5年勤務		
講義目標	一般目標				
	スポーツ活動支援、国際支援、その他各種理学療法について学ぶ。				
講義目標	到達目標				
	スポーツ活動支援、国際支援、その他各種理学療法について理解する。				
回数	講義内容				
1	慢性疼痛の理学療法（1） 大友 篤				
2	慢性疼痛の理学療法（2） 大友 篤				
3	スポーツ活動支援としての理学療法 小宮山				
4	ウィメンズヘルスとしての理学療法（1）三浦恵				
5	ウィメンズヘルスとしての理学療法（2）三浦恵				
6	国際支援としての理学療法 久保田凌				
7	骨粗鬆症予防の理学療法（1） 三浦信明				
8	骨粗鬆症予防の理学療法（2）0.5コマ 三浦信明				

**講義方法**

スライドによる講義、実技

**講義で使用する機器・教材**

1～2年次に使用したすべての教科書

**履修上の注意事項****成績評価方法**

出席、授業態度を含め総合的に判断する

S:90～100点、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:60点未満

**教科書・参考書**

特になし。

**予習復習のアドバイス**

わからないことは積極的に質問してください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2026年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	90分		
科目名	地域理学療法学Ⅱ	講義曜日	水	講義回数	11回
		総時間数	30	単位数	2
講師名	石島 孝樹	実務経験	【修士：障害科学】 病院・クリニックで20年の臨床経験がある。		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	近年、産業衛生分野において作業内容に起因する障害予防の重要性が提唱されている。障害予防の見地から、理学療法士に期待される社会背景を把握し、適切な評価及び介入方法を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	1. 予防理学療法の概要が説明できる。 2. 高齢者の疾患特性が説明できる。 3. 人間工学的評価・思考が説明できる。 4. 労働環境に起因する障害の対応方法が説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	予防理学療法の概論 理学療法と予防	9	産業理学療法の実際① 労働環境における筋骨格系障害の予防
2	産業理学療法の概論 労働における予防理学療法	10	産業理学療法の実際② 頸肩腕症候群の予防、転倒予防
3	高齢期における予防理学療法① 高齢者の特性、転倒予防の意義と目的	11	産業理学療法の実際③ 労働環境におけるメンタルヘルス問題
4	高齢期における予防理学療法② 認知症・廃用症候群の予防	12	
5	壮年期における予防理学療法① 壮年期の特性、生活習慣病	13	
6	壮年期における予防理学療法② 脳血管障害・心疾患・悪性新生物の予防	14	
7	学童期・思春期における予防理学療法 発達における変化、肢体不自由児	15	
8	人間工学の概要と使い方 人間工学の概要、行動変容理論	16	

**講義方法**

座学（授業ごとに教科書をもとに作成した資料を配布します）\*プロジェクターを使用

**成績評価方法**

筆記試験100%

**参考書**

予防と産業の理学療法 南江堂

**予習復習のアドバイス**

授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。

## 講義要項（シラバス）シート

<b>年度</b>	2026年度	<b>時期</b>	前期	<b>学年</b>	3
<b>学科</b>	理学療法科	<b>講義時間</b>	本実習280時間、実習前後評価40時間		
<b>科目名</b>	臨床実習Ⅱ	<b>講義曜日</b>		<b>講義回数</b>	
		<b>単位時間数</b>	320	<b>単位数</b>	8
<b>講師名</b>	川口 晴美、高橋 玲子	<b>実務経験</b>	理学療法士		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	(1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。				
	(2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。				
	(3) 理学療法プロセス（治療プログラム立案まで）を理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる。				
	(4) 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（水準Ⅰ）において、協同参加以上で症例における一連のリスク管理、理学療法評価・推論を実践することができる。				
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>				
1	実習前評価20時間				
2	本実習280時間				
3	実習後評価20時間				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
<b>講義方法</b>					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<b>成績評価方法</b>					
実習に関する最終評定は、実習前後の評価、実習指導報告書及びセミナー内容などから総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。					
<b>教科書・参考書</b>					
<b>予習復習のアドバイス</b>					

## 講義要項（シラバス）シート

<b>年 度</b>	2026年度	<b>時 期</b>		<b>学 年</b>	3
<b>学 科</b>	理学療法科	<b>講義時間</b>	本実習280時間、実習前後評価40時間		
<b>科目名</b>	臨床実習Ⅲ	<b>講義曜日</b>		<b>講義回数</b>	
		<b>単位時間数</b>	320	<b>単位数</b>	8
<b>講師名</b>	川口 晴美、高橋 玲子	<b>実務経験</b>	理学療法士		
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	<p>(1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。</p> <p>(2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。</p> <p>(3) 理学療法プロセスを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる。</p> <p>(4) 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（水準Ⅰ）において、協同参加以上で症例における一連のリスク管理、理学療法評価・推論、理学療法治療技術を実践することができる。</p>				
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>				
1	実習前評価20時間				
2	本実習280時間				
3	実習後評価20時間				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
<b>講義方法</b>					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<b>成績評価方法</b>					
実習に関する最終評定は、実習前後の評価、実習指導報告書及びセミナー内容などから総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。					
<b>教科書・参考書</b>					
<b>予習復習のアドバイス</b>					